

KAWAI Report

KAWAI

2024 Sustainability



ひととひとが

自然とともに

響きあう社会をめざして

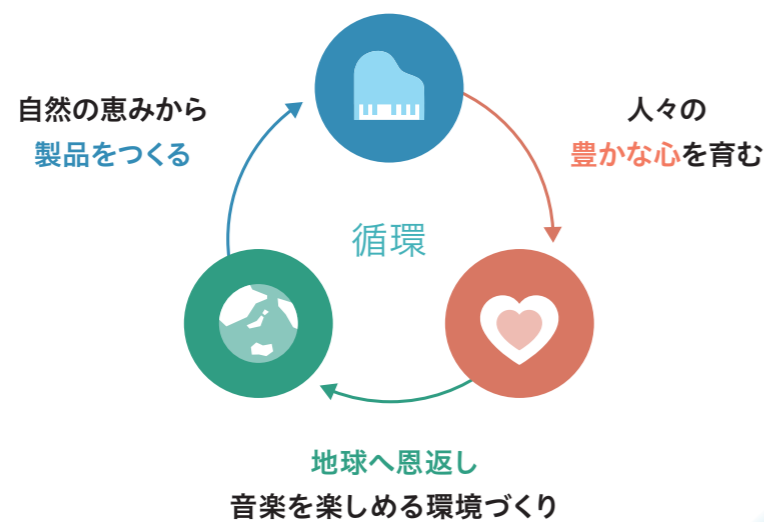
トップメッセージ

「100年ブランドの確立
さらに次の100年に向かって」



ひととひとが自然とともに 響きあう社会をめざして

自然の恵みから「製品」をつくり
ひととひとの「豊かな心」を育むサービスを提供し
「地球」へと恩返しをしていく。
私たちが目指すサステナビリティは
それぞれが循環してより良い効果が響き合う
社会づくりに貢献していくことです。



経営の理念

創造性豊かな好感度企業をめざして…

快適で豊かな生活環境を創造します
お客様の満足を第一に商品・サービスを提供します
新しい時代に向かって企業活動を推進します
社員を大切にし、明るい企業をめざします

行動指針

現状に満足せず、常に開拓者精神に燃えて…

失敗を恐れずアグレッシブに行動しよう
常に向上心を持ち自己研鑽に励もう
豊かな創造性を発揮し、変化する時代に挑戦しよう
自然との共生を大切にし、社会に役立つ活動を積極的に行おう
音楽文化の担い手として、自信と誇りを持って行動しよう

目次

カワイグループについて	03	社会に対する取り組み	21
サステナビリティ	09	ガバナンスに対する取り組み	33
環境に対する取り組み	13	データセクション	38

カワイグループのあゆみ

変えてはならないものを次代に継承する — それは創業時から脈々と流れるピアノづくりにかける熱い想い。
 変えるべきものは大胆に改革する — それは最先端の研究開発による素材や設計の見直し。
 90年の歴史を重ねた「KAWAI」 — 愛され、選ばれるブランドを目指して、さらに挑戦を続けます。

1927年～黎明期 世界一のピアノを日本で



1927年、河合小市が仲間と共に創設した「河合楽器研究所」。工場とも呼べない小さな倉庫からの出発であったが、そこには「ピアノづくりにかける熱い想い」という大きな資本があった。庶民には手が出なかったピアノのイメージを覆す、安さを求めて性能は妥協をしない姿勢、それはまさに技術者としてのプライドだった。

1928年
ピアノ第一号機発売



1955年～戦後の復興から世界へ羽ばたく



2代目社長
河合滋

「音楽は万人のもの」の理念の下、1956年に開始した「カワイ音楽教室」は、楽器の需要創造と音楽文化の発展を目指すものだった。さらに、直営店制度への移行を開始し、直営販売の礎を築いた。

1956年
開始当時のカワイ音楽教室



1959年
直営ショップ第一号店

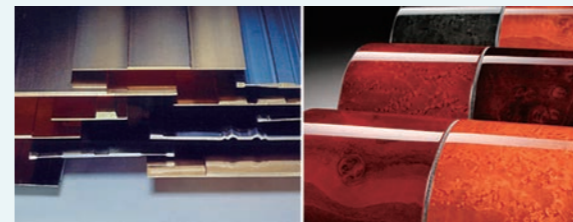


1989年～守るべきもの 変えてゆくもの



3代目社長
河合弘隆

社長就任以降、弘隆は「温故知新」の精神を軸に、異形金属板の製造技術を活かした金属事業や、ピアノ鏡面塗装技術のノウハウを活かした塗装事業といった新事業の芽を育んだ。世界的視野を持った活動により企業として本格的な世界進出も図った。



複数形状を可能にした圧延異形板 高級車の内装用パネル塗装

バブル崩壊以降、経営環境は大きく悪化した。生き残りを迫られた弘隆は、今こそ主軸であるピアノ生産・販売を見直すことが重要であるとして、インドネシアや中国での生産拠点・販売会社の設立など海外市場に目を向け、また国内では楽器販売・ピアノ調律・音楽教室が互いに支え合う三位一体体制を導入し、息を吹き返すことに成功した。



インドネシアの電子楽器製造工場 中国のピアノ部品製造工場



楽器販売、音楽教室、調律事業の三位一体体制を確率

創立
1927年

1927—1954年

1938年

第二次世界大戦中 軍需工場としたピアノ工場



「会社再建は我々の手で」— 苦難を乗り越えて、1948年にはピアノ・オルガンの製造再開にこぎつけ、1950年には戦後初のグランドピアノ500号が製作された。「楽器を売る前にまず技術を売れ」という小市の精神なくして、今日のカワイは語れない。



初代社長
河合小市

1955—1988年

1980年

当時のグランドピアノ専門工場としては世界最大規模を誇り、また最新設備による優れた生産能力を備える一方で、熟練の職工による昔ながらの手作り工程「原器工程」を有するカワイ竜洋工場を建設。



1985年

「フルコンサートピアノ EX」は世界で最も権威ある、ショパン国際ピアノコンクール公式ピアノに認定され、ワルシャワ国立フィルハーモニーホールでのステージに立った。「KAWAI」がトップブランドになった瞬間であった。



第12回ショパン国際ピアノ
コンクール (1990年)

カワイサステナビリティのあゆみ

公害防止の時代を経て、地球環境保全のため環境活動に取り組みと共に、音楽文化の発展やグループ全体のサステナビリティ活動も推進

1994年

全社的な環境推進組織の
地球環境委員会発足



地球環境保全のため地球環境憲章を制定し
地球環境委員会が発足

1997年

竜洋工場が ISO14001
認証取得 楽器業界で世界初



地球環境にやさしい工場を目指し竜洋工場に
環境マネジメントシステムを導入

2007年

「カワイの森」
インドネシア植林事業開始



創立 80 周年の記念事業として社員の有志
により「カワイの森育成会」を設立

2017年

Shigeru Kawai 国際ピアノ
コンクールを創設



次世代ピアニストの育成と音楽文化振興のため
「Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール」を創設

2023年

持続可能な社会の実現に向け
サステナビリティ委員会発足



グループのサステナビリティ活動推進のため
サステナビリティ委員会を設置

トップメッセージ



100年ブランドの確立 さらに次の100年に向かって

代表取締役社長 執行役員
河合健太郎

2024年2月28日付で、代表取締役社長に就任いたしました河合健太郎です。当社97年の歴史の中で、4代目の社長となります。先人達の想いを受け継ぐとともに、世界の主要な国際ピアノコンクールや世界的なアーティストから選ばれるブランドに成長したこのカワイブランドを守り抜き、そして更に発展させるために、より一層強い覚悟を持って取り組んでまいります。

カワイイズムの承継

1927年、創業者河合小市の「世界一のピアノをつくりたい」という熱い想いからカワイはスタートしました。創業者のピアノづくりに対する精神、哲学は、偉大な先人であ

る技術者達にも受け継がれ、楽器づくりにとどまらず、教育事業、素材加工事業と様々な分野に拡大してまいりました。この精神、哲学こそが「カワイイズム」であり、次の3つから成り立っていると考えております。

1. 常に高い理想を抱き、挑戦し続けること
2. 苦境に陥っても決して屈しないこと
3. 誠実で暖かい人間であること

これらは当社の強みであるとともに、私たちが今日まで事業を継続する中で苦境からも常に回復し、97年の歴史を構築する源となった不変の価値観です。私たちの役目は、創立100周年を迎え、次の100年に向けて、この「カワイイズム」を発展させることです。

カワイが目指す姿

私たちはアコースティックピアノの世界で頂点を目指しております。これは、創業者の夢であった「世界一のピアノづくり」を実現することでもあります。クラシック業界で確固たる地位を築き、多くの人々に当社のピアノを知ってもらい、そして弾いてもらうためには、楽器だけでなくあらゆるモノづくりにおいても、誰もが認め、安心し、信頼できる企業になることが非常に大切です。妥協を許さず、製品に対して愚直に向き合い、感動製造業としての使命を果たすこと、これを実現することが、アコースティックピアノだけでなく、電子ピアノをはじめとする様々な製品やサービスに、カワイのブランド力を広げることにつながると考えております。

また、カワイブランドの認知度を更に向上させることも重要な目標です。現状、世界的に見れば当社の認知度はまだまだ拡大の余地があります。アメリカ、ヨーロッパ、中国、日本などの既存市場においては、リアル空間とデジタル空間の両方でのプロモーションの強化により、当社の認知度を更に向上させると共に市場シェアを高め、新興市場においては、特に東南アジアでの音楽教育事業の展開を通じて、演奏人口を増やし、カワイファンを増やす動きを加速させてまいります。

持続可能な未来のために

私たちの使命は、単に楽器を製造することだけではありません。地球との調和、音楽文化振興、そして持続可能な社会の実現に貢献していくことも重要な責務です。

当社は、環境に配慮した事業推進の一環として、2022年、ピアノ生産工場（竜洋工場）に太陽光発電設備を導入いたしました。この設備の導入は、再生可能エネルギーの利用を進めるための取り組みのひとつであり、地球温暖化対策の重要な役割を担っております。これにより、工場で使用する電力の一部をクリーンなエネルギーでまかなうことが可能となり、化石燃料の消費削減、二酸化炭素排出削減につながっております。

地球温暖化の影響を抑えるためには、環境保護への取り組みもまた不可欠です。海外では、毎年インドネシアで植林活動を行っており、地元の森林公社と共同で管理されるこの植林地は「カワイの森」と名付けられ、地元の洪水防止にも寄与しております。これらの活動は、地球環境と共生し、次世代に美しい自然を残すための重要な取り組みであり、当社のサステナビリティへの取り組みの一部を形成しております。

また、当社の創立90周年を記念して2017年に創設した Shigeru Kawai 国際ピアノコンクールは、世界中から集まった若き才能たちが、私たちのピアノでその技術と情熱を披露する場となっております。こういった活動が、次世代を担うピアニストの発掘・育成、国際交流の推進並びに世界の音楽文化の振興に寄与しております。

最後に、私たちは、従業員だけでなく、取引先を含むすべてのステークホルダーが安心して働ける、取引できる、信頼できる企業を目指しております。世界中のカワイの従業員が、将来ビジョンを描き、企業としての理想と個人としての目標を共有し、夢を語れる環境を作り出すこと、そして誇りを持って働ける環境を作り出すことが持続可能な経営を実現し、持続可能な社会の実現に貢献するものと考えております。

2027年に迎える創立100周年、さらに次の100年に向けて、当社は「世界の舞台で選ばれるピアノ」、「世界のアーティストから選ばれるピアノ」を目指してまいります。そして、楽器製造だけでなく、持続可能な社会づくりにも積極的に取り組み、世界中の皆様と感動や笑顔を分かち合える企業であり続けたいと思います。



中期経営計画

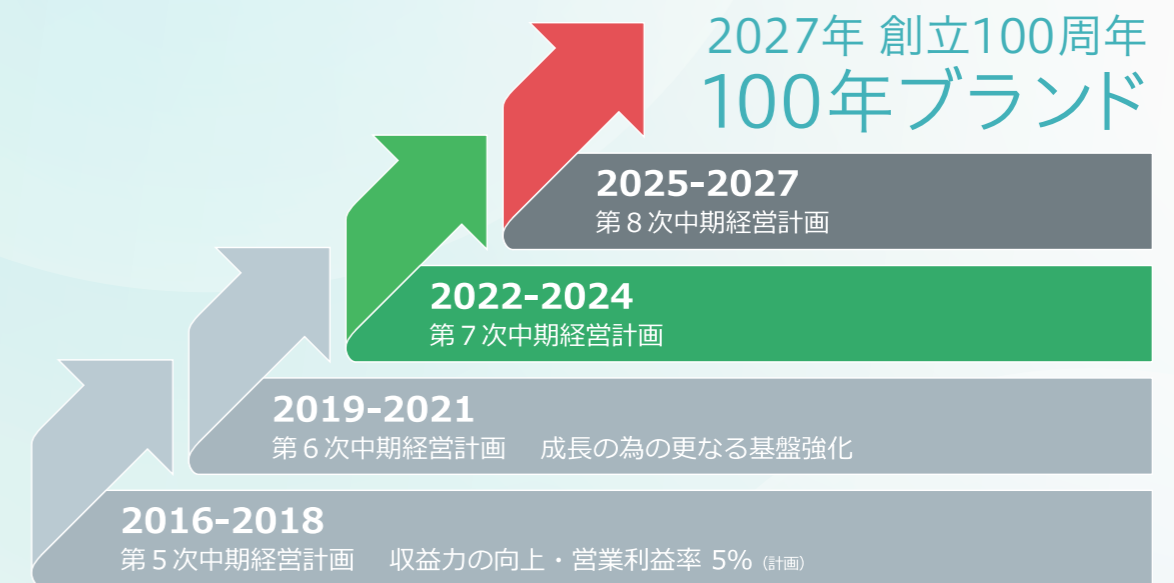
長期ビジョン

100年ブランドの確立



100年、そしてさらにその先の継続的な発展に向け、祖業であるピアノづくりで世界一を目指し、各事業の強みをさらに深化させ、お客様満足度の追求・向上と音楽文化の発展を通して、企業価値・ブランド力の向上と持続的な成長を図ります。

第7次中期経営計画「Resonate 2024」(2022年度～2024年度)



基本方針

100年ブランドの構築に向け、新たな事業環境に適合しながら堅実に成長し、100周年に向けた盤石の体制を構築いたします。そして、100周年の「その先」を見据え、KAWAIが実現したい未来を描きます。

重点戦略

顧客接点の進化

顧客購買行動の変化に適合したプロモーション政策を強化し、リアル施策とデジタル施策を融合させて「より多くのターゲット顧客」に対して、製品・サービスの価値を「より分かりやすく」伝えていきます。

需要拡大領域の強化

ライフスタイルの変化により、ハイブリッド製品、電子ピアノに対する需要が増加しており、こうしたニーズに応えるラインナップの拡充と生産体制の増強に取り組めます。


コスト増への対応

半導体などの材料費や海外輸送費の高騰によるコスト上昇に対応する為に、生産性の向上と販売価格の適正化を進めます。

サステナビリティマネジメント


サステナビリティ方針

経営の理念「創造性豊かな好感度企業をめざして…」の実現に向け、より良い楽器づくりと音楽文化への貢献を目的とした企業活動を通じて、地球環境・社会との調和、さらには経営の健全性を確保することにより企業としての持続的な発展に努めるとともに、お客様をはじめとした全てのステークホルダーの皆様と協働して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。




Environment

各事業分野でグローバルな視野に立って地球環境と資源を守るとともに、真に豊かな心と社会の実現に尽くしてまいります。



Social

音楽を通じて感動と満足をお届けする「感動製造業」として、豊かでうおいのある社会の実現を目指し、全てのステークホルダーの皆様との良好な関係を構築してまいります。



Governance

持続的な企業価値の向上を実現するため法令やその他のルールを遵守し、健全かつ透明性の高い経営の実現に取り組んでまいります。

カワイグループは、サステナビリティ方針を定め、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

サステナビリティ推進組織

カワイは、経営課題の一つにサステナビリティを定めています。持続可能な経営に関する諸課題（サステナビリティ課題）に対して、経営環境、企業価値への影響等を踏まえ、グループ全体のサステナビリティ活動の推進を目的とし、サステナビリティ委員会を取締役会直下の組織として設置しています。また、サステナビリティ委員会の下部組織としてサステナビリティ推進部会を設置し、各部会が委員会の決定に基づき、事業統括部門・グループ会社の具体的な活動を推進しています。

サステナビリティに係る重要事項はサステナビリティ委員会にて審議を行った上で定期的に取締役会に報告を行っています。

SDGs に対する取り組み

2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、このアジェンダに記載された持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals）は、17の目標と169のターゲットで構成され、2030年までに達成すべき目標として掲げられています。

本誌では、関連する取り組みを記載したページに、該当するSDGsアイコンを付与しています。

カワイでは事業活動を通じ、関連する目標はもとより全ての目標達成に向け、更に対応を進めてまいります。

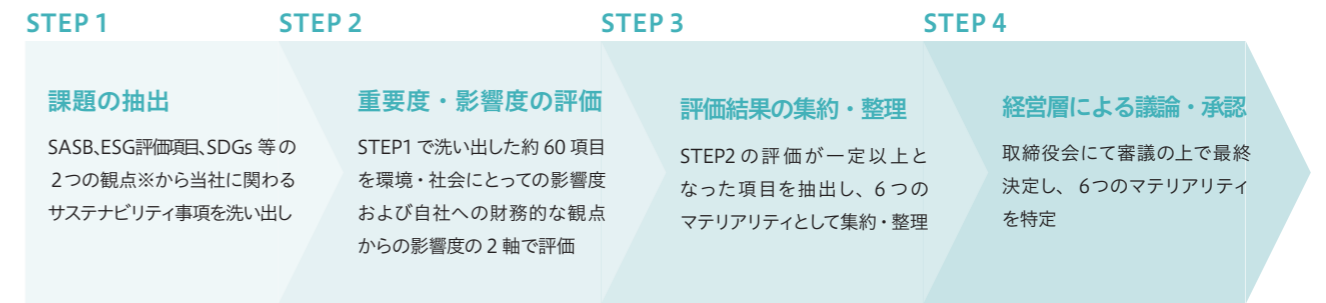


マテリアリティ

当社はサステナビリティ方針を定め、持続可能な社会の実現に貢献しながら、中長期的な企業価値向上に努めていくことを定めています。この方針の実践のため、特に当社にとって重要であり対応していくべきサステナビリティ事項を、マテリアリティとして特定しました。

特定したマテリアリティは、当社の経営における重要事項の一部と位置づけ、目標・指標や行動計画等を設定の上、全社の活動へ組み込み、取り組みを進めていきます。

マテリアリティ特定のプロセス



- ※ 1. サステナビリティ情報開示基準（SASB等）や、ESG評価機関の評価項目等に関連する事項
- 2. SDGsや社会課題に関連して、当社固有の活動が環境・社会・経済に一定のインパクトを与えている（与えうる）事項

特定したマテリアリティ

ESG	マテリアリティ	主な取り組み課題
環境	気候変動への対応	Scope1 + 2 排出量 & Scope3 排出量の削減 再エネの活用拡大 操業の効率化（省エネ） 木材利用による生態系への影響管理（持続可能な木材利用） 森林保全活動（植樹・植林）
		人財育成、技能習得支援の提供 多様な働き方への対応、働き甲斐のある職場 適切な待遇の確保（適切な賃金水準等） 労働安全衛生の確保 事業活動上の人権リスクへの対応
社会	人財育成と働きがいのある職場環境の整備	ピアニストの育成支援 地域での音楽文化振興 ピアノ調律師の育成、輩出や、音楽関連専門職の雇用創出 一流アーティストの期待に応えるものづくり
	音楽文化発展への貢献	品質、顧客満足度の向上 製品・サービスの安全性確保 AI/IoT等のデジタル技術の活用 イノベーションの促進
	品質・安全・顧客満足度の追求	サプライチェーン上の労働問題への対応、監査の実施 サプライチェーン上の人権リスクへの対応 (地域) 中小企業の人材不足、事業承継問題への対応
ガバナンス	ガバナンスの強化	持続可能なサプライチェーンマネジメント
		取締役会の実効性向上 リスクマネジメント体制の整備、PDCAの運営 個別リスクへの対応、 BCPの確保（パンデミック、自然災害、サイバーセキュリティ等） コンプライアンス体制の整備・強化（腐敗防止や企業倫理の確立含む）

カワイの取り組みと関連する SDGs



ISO26000 中核主題	分類	関連する SDGs	指標	2023 年度実績	取り組み	参照
E 環境 Environment	環境負荷低減	7, 12, 13, 15	<ul style="list-style-type: none"> CO₂ 排出量 CO₂ 排出量原単位 エネルギー量原単位 廃棄物排出量原単位 環境マネジメントシステム導入 再生可能エネルギー導入 	<ul style="list-style-type: none"> 23,505t-CO₂ 2021 年比 -9.1%(232.1kg-CO₂/百万円) 2021 年比 -9.9%(4,421.7MJ/百万円) 2021 年比 +6.9%(25.0kg/百万円) 10 事業所 (国内 5、海外 5) 太陽光発電による電力の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境憲章の制定 地球環境委員会の設置 環境方針の制定 環境マネジメントシステムの導入 グリーン調達ガイドラインの制定 木材調達ガイドラインの制定 温室効果ガス排出量算定 省エネ法対応 地球温暖化防止 	P13-16
	資源循環	7, 12, 13	<ul style="list-style-type: none"> 再資源化率 下取りピアノ再利用率 	<ul style="list-style-type: none"> 89% 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物排出量の削減 廃棄物の再資源化 下取りピアノの再生 	P17
	植林・植樹	7, 12, 13	<ul style="list-style-type: none"> 植林本数 植林面積 	<ul style="list-style-type: none"> 累計 84 万本 累計 800ha 	<ul style="list-style-type: none"> インドネシアの植林活動 竜洋工場緑化推進 被災地の海岸防災林再生・保育 	P18
	気候変動対策	14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 情報開示 	<ul style="list-style-type: none"> TCFD 提言に基づく情報開示 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ委員会の設置 気候変動リスク・機会のシナリオ分析 	P19-20
S コミュニティへの参画及び発展 Social	文化貢献	4, 17	<ul style="list-style-type: none"> コンサートの開催 音楽団体への支援 	<ul style="list-style-type: none"> KAWAI PREMIUM CONCERT 開催 日本ショパン協会、クロイツァー記念会、日本シマノフスキ協会への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 第 4 回 Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール KAWAI PREMIUM CONCERT の開催 各種音楽団体への支援 	P21-22
	教育・育成	3, 4, 17	<ul style="list-style-type: none"> 発表会・コンクールの実施 	<ul style="list-style-type: none"> カワイ音楽コンクール、海外でのオンラインコンクール、カワイカップ全国新体操競技会、カワイカップ器械体操競技会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> カワイ音楽教室 カワイ音楽コンクール 海外での音楽教育の普及 KAWAI MUSIC SCHOOL PIANO COMPETITION 体育・スポーツ教室 スポーツコミュニティ 	P23-25
	社会貢献	11, 17	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加・支援 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動への参加、工場見学の実施、校外学習の受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動への参加 地域との協働 工場見学の受け入れ 	P31
	人財育成	5, 8	<ul style="list-style-type: none"> 研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新入社員研修、年次別研修、新任監督者研修、新任管理者研修 	<ul style="list-style-type: none"> 階層別研修 職種別研修 自己啓発支援 	P26
	ダイバーシティ	5, 8	<ul style="list-style-type: none"> 女性管理職比率 / 女性監督職比率 外国人従業員数 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職：5.4% / 監督職：16.0% 11 名 	<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍推進 グローバル人材の育成 中途採用者の雇用 障がい者雇用 	P27
	ワークライフバランス	5, 8	<ul style="list-style-type: none"> 育児休業取得率 配偶者出産休暇取得率 	<ul style="list-style-type: none"> 女性：100% / 男性：37.5% 62.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスの推進 育児休業取得推進 	P28
	健康経営	8	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断受診率 外部からの健康経営評価 	<ul style="list-style-type: none"> 100% を継続 健康経営優良法人 2024 	<ul style="list-style-type: none"> 健康経営宣言の制定 健康経営体制の整備 健康経営活動 (ストレスチェック、健康セミナーなど) 	P29
労働安全衛生	8	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生管理活動の実施 労災死亡事故発生件数 	<ul style="list-style-type: none"> 職場巡視、5Sパトロールの実施 0 件 	<ul style="list-style-type: none"> 特殊健康診断 安全衛生教育 身体機能測定会の実施 	P30	
消費者課題	品質・顧客満足	12	<ul style="list-style-type: none"> 品質会議の実施 品質マネジメントシステム導入 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月開催 9 事業所 (国内 4、海外 5) 	<ul style="list-style-type: none"> 品質・サービス向上の推進 お客様満足度向上 	P32
G 組織統治 Governance	コーポレート・ガバナンス	16	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役数 社外取締役構成比率 女性取締役数 女性取締役構成比率 	<ul style="list-style-type: none"> 3 名 37.5% 1 名 12.5% 	<ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンス基本方針の制定 内部統制システムに関する基本方針の制定 コーポレートガバナンス体制の整備 コーポレートガバナンス委員会の設置 取締役の専門性・多様性の確保 取締役会の実効性評価の実施 	P33-35
	リスクマネジメント	12, 16	<ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント委員会の開催 安否確認訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に開催 定期的実施 	<ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント委員会の設置 BCP (事業継続計画) の策定 	P36
	人権 / 公正な事業慣行	コンプライアンス	16	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 企業倫理月間における啓発活動、企業倫理ニュース毎月発行、研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 企業倫理委員会の設置 企業倫理ホットラインの設置 コンプライアンス教育の実施



環境

Environment



地球環境の保全と資源の循環に向けた取り組みを推進し
環境負荷の低減と気候変動への対応を進めながら、真に豊かな社会の実現をめざします

環境負荷低減

地球環境憲章

カワイグループは、すばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取り組みが必要であると認識しています。世界の良き企業市民として環境の保全に努めつつ、人と地球にやさしい優れた商品を通じて社会からの信頼と共感を得ることができる道を進むために「地球環境憲章」を1994年に制定しました。

地球と人にやさしい企業をめざして

■ 基本理念

『感動製造業』をモットーとする私たちは、地球市民の一員として環境と資源を守ると共に、真に豊かな心と社会の実現に尽くします。また、グローバルな視野に立って地球環境にやさしい企業を目指します。

豊かな人間性や快適な生活環境の創造を
優れた研究、優れた技術、優れた商品の創造を
環境に優しい生産・流通・販売活動の創造を

■ 行動指針

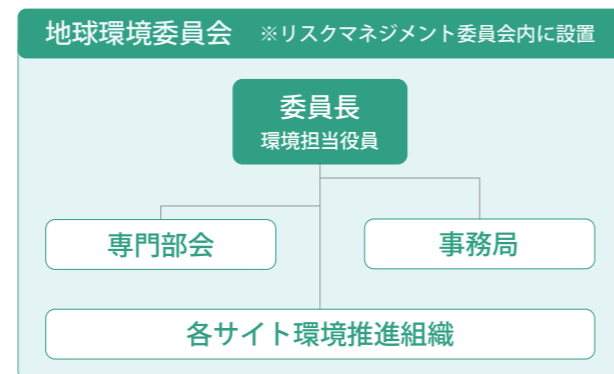
1. 音楽文化産業として、各々の事業分野で人と音との良好な関係を築いていきます。
2. 様々な場面で、環境への影響を科学的な方法により評価し、必要な対応策を実施することにより、環境の保全と人の健康を守ります。
3. 資源の有効活用と省エネルギーの推進を図ります。
4. 製品の研究開発・設計段階からリサイクルと廃棄物発生量の減少を目指します。
5. 環境の保全活動に関し、国内外の要請に応え、地域との共生を目指して積極的に参画し、保護対策を実施します。

環境推進組織

環境経営を推進する組織として、1994年に環境担当役員を委員長とする地球環境委員会を設置し、環境保全に関する全社環境方針や目標を設定し活動しています。

地球環境委員会では、専門部会を隔月で開催し各サイトにおける環境目標に対する経過報告や取り組みの情報交換を実施しています。

また、サステナビリティ委員会内に設置された環境部会と連携し、持続可能な経営に関わる環境課題の解決にも取り組んでいます。



環境方針

カワイ地球環境委員会では「地球環境憲章」を受け「環境方針」を制定しています。
《有益な環境側面の発掘》《地球温暖化防止》《資源循環活用》《資源有効活用》《グリーン調達》等の推進に全社一丸となって邁進しています。

私たちは、楽器製造をはじめとする様々な事業の中で、環境への影響を配慮した活動を行い、地球環境の保全に向けた継続的な改善と汚染の予防に努めます。

1. 環境マネジメントシステムにより、環境負荷の低減や有益な環境側面を発掘し推進することを目標に設定するとともに、社会の期待や大きさに応じた定期的な見直しを実施します。
 - 1) 社会の期待と環境負荷に配慮した「製品、サービスの提供」「技術の開発」に努めます。
 - 2) 開発、生産、流通、販売、サービスなどの各部門において「地球温暖化防止」「資源循環活用」「資源有効活用」に努めます。
2. 必要な資源の調達・購入に際しては、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入します。(グリーン調達)
3. 環境に関連する法規制を遵守するとともに、その他の要求事項を考慮して自主的な基準を設け、環境管理レベルの向上に努めます。
4. 環境教育を通じ、全社員の意識向上を図るとともに、一人ひとりが広く社会に目を向け、日常業務や日常生活の中で自主的な貢献活動ができるよう啓蒙と支援を行います。
5. この環境方針を達成するため、環境管理担当役員を総括責任者とした環境管理の組織、運営制度を整備し、目標・計画・施策・責任を明確にして環境保全活動を展開します。

環境マネジメントシステム

カワイグループでは環境マネジメントシステム ISO14001 の導入を推進しています。
現在、国内では竜洋工場、(株)カワイハイパーウッド、カワイ精密金属(株)が認証を取得し、(株)カワイ音響システムは、自己適合宣言を行っています。海外では PT. カワイインドネシア第1・第2・第3工場、上海カワイ電子有限公司、河合楽器(寧波)有限公司が認証を取得しています。

これらの事業所では環境マネジメントシステムで要求されている継続的改善のPDCAサイクル(計画・実行・検証・対応の繰り返し)をまわすため定期的に内部監査を実施し、進行状況や是正事項の確認を行っています。

また、認証取得事業所では、外部の認証機関による毎年のサーベイランス審査及び定期的な更新審査において、環境マネジメントシステムが有効に機能していることの審査を受けています。

今後も、より一層の環境負荷削減のため、グループ全体への環境マネジメントシステムの導入に取り組んでまいります。

環境マネジメントシステム導入拠点一覧

導入年	導入拠点
1997年	竜洋工場 (ISO14001 認証取得)
2011年	PT. カワイインドネシア第1・第2工場 (ISO14001 認証取得)
2012年	河合楽器(寧波) 有限公司 (ISO14001 認証取得)
2015年	カワイ精密金属(株) (ISO14001 認証取得)
2016年	(株)カワイハイパーウッド (ISO14001 認証取得)
2017年	(株)カワイ音響システム (ISO14001 自己適合宣言) PT. カワイインドネシア第3工場 (ISO14001 認証取得)
2020年	上海カワイ電子有限公司 (ISO14001 認証取得)

グリーン調達ガイドライン

カワイグループでは必要な資源の調達・購入に際して、カワイ地球環境委員会の定める「環境方針」に基づき、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入するグリーン調達にグループ全体で積極的に取り組んでいます。

グリーン購入法やグリーン購入ネットワーク（GPN）の基本原則に準じたグリーン調達を推進し、環境負荷を総合的に低減することで、生物多様性の保全や循環型社会構築に積極的かつ継続的に貢献するよう活動しています。

基本方針

1. 調達の必要性を十分に考慮し、
2. 品質や価格に加え環境に配慮し環境負荷ができるだけ少ない製品やサービスを、
3. 環境負荷の低減に努める事業者から優先的に調達する。

適用範囲

- 事務所用品、部品、原材料、設備などカワイグループが調達する全ての物品・サービス。
- ・事務所等で使用する一般品（用紙、文具、コンピュータ等機器類、作業着、印刷物等）
 - ・カワイ製品（OEM 含む）に用いる部品・原材料（梱包材、付属品等を含む）
 - ・サービス等（通信、その他の役務）

調達基準として、法律、関連団体の基準、社内基準を遵守することはもちろん、天然資源への配慮から省資源、省エネルギー、処分やリサイクルまであらゆる段階での環境配慮がされていることが規定されています。

サプライヤー選定時にも環境に対する管理状況や省資源・省エネルギーへの取り組み、環境情報の公開状況などの配慮事項を定めて、購買部門よりお取引先様に対応をお願いしています。

また、よりグリーン調達の実効性を高めるため、多言語の「グリーン調達基準書」を定めています。この「グリーン調達基準書」の周知のためにサプライヤーへの説明会を行い、サプライチェーン全体での環境負荷低減にも取り組んでいます。

▶カワイ グリーン調達ガイドライン

https://www2.kawai.co.jp/company/activity/pdf/kg_20040130.pdf



木材調達ガイドライン

ピアノ等楽器の製造において木材は重要な原材料であることを認識しています。持続可能な資源である木材の調達におけるカワイのポリシーを明文化しました。

基本理念

カワイは、木を大切に、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する、木材のグリーン調達を推進する。

基本方針

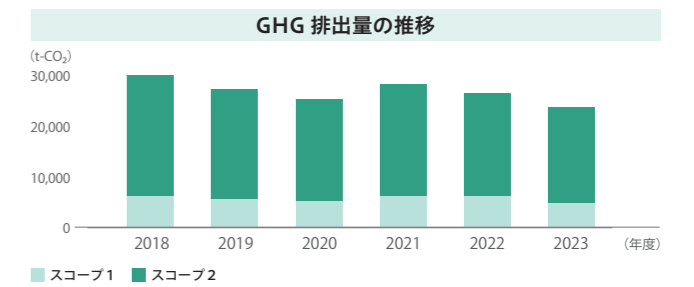
1. カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
2. カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や遵法に配慮する。
3. カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
4. カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
5. カワイは、森林認証林産物等を優先して調達する。

GHG プロトコルに基づく温室効果ガス排出量算定

カワイでは、従来より国内および海外の CO₂ 排出量の数値を算定・公表してきました。

昨年度からは GHG プロトコルに基づくスコープ別温室効果ガス排出量（GHG 排出量）の把握も行っています。2023 年度の GHG 排出量は、前年度に比べ 11.3% 削減されています。

算定範囲は、国内事業所および海外生産系事業所であり、グループ全体の GHG 排出量の 95% 以上をカバーしています。



省エネ法への対応と環境負荷低減の取り組み

省エネ法（エネルギー使用の合理化等に関する法律）は、一定以上のエネルギーを使用している会社（特定事業者）にエネルギー使用の合理化を求めています。

カワイグループでは(株)河合楽器製作所、カワイ精密金属(株)、(株)カワイキャスティングが特定事業者に、竜洋工場、カワイ精密金属(株)本社・浜松工場、(株)カワイキャスティングの3工場が第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。

2023 年度は、(株)河合楽器製作所が 8 年連続、カワイ精密金属(株)は 4 年連続で、省エネ法の事業者クラス分け評価制度にもとづく優良事業者の S クラス* の評価を受けています。

また、地球環境委員会では、「省エネ法への対応」「地球温暖化の防止」や「資源循環と資源の有効活用」を目的とし、CO₂ 排出量と廃棄物排出量について売上高原単位の削減に取り組んできました。2022 年度からの 3 ヶ年は、2021 年度を基準年として毎年 1% 削減することを目標値と定め取り組んでいます。

2023 年度の実績は、CO₂ 排出量原単位は 2021 年度比 9.1% 減少となり目標を達成しましたが、廃棄物排出量原単位については 2021 年度に比べ 6.9% 増加し未達成となりました。

* エネルギー消費の 5 年間平均原単位を年 1% 以上削減する努力目標を達成した事業者

指標	2019 年度	2020 年度	2021 年度 (基準年)	2022 年度	実績	2023 年度 増減	評価
CO ₂ 排出量原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	306.0	294.9	255.5	234.6	232.1	-9.1%	◎
廃棄物排出量原単位 (kg/百万円)	26.2	25.0	23.4	23.8	25.0	6.9%	×
エネルギー量原単位 (MJ/百万円) * 参考値	5654.6	5635.7	4907.3	4477.4	4421.7	-9.9%	-

評価 ◎: 達成 ×: 未達成

地球温暖化防止の取り組み

カワイグループでは地球温暖化防止の取り組みを環境経営の重点項目と位置づけ、省エネルギー施策を実施することによって、エネルギー使用による CO₂ 排出量の削減を推進しています。

- ・省エネルギーに配慮した工場設備の導入
- ・LED 照明への更新
- ・再生可能エネルギーの導入
- ・電力会社と共同の定期的な省エネ診断の実施
- ・オフィスでの「クールビズ」「ウォームビズ」運動の実施



太陽光発電設備を導入した竜洋工場

▶竜洋工場に太陽光発電設備を導入（ニュースリリース）

<https://www.kawai.co.jp/news/20221223/>



太陽光発電による再生可能エネルギーの利用

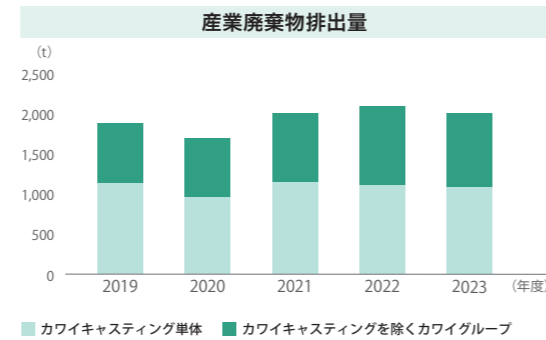
竜洋工場の太陽光発電設備は 2022 年 12 月の導入から 1 年以上が経過しました。2023 年の発電実績は 772MWh で、竜洋工場全体の消費電力の約 14% に相当します。これにより、CO₂ 排出量が約 350t-CO₂ 抑制されました。

資源循環

産業廃棄物排出量の削減

カワイグループの産業廃棄物排出量は、2012年度にピアノフレーム製造の(株)カワイキャストिंगがグループの一員となり、鋳物製造時に生じる大量の鋳さいが廃棄物として排出されたため、3,203tにまで増加しました。その後、生産ラインの合理化や生産効率の改善に取り組み廃棄物排出量の削減に努めてまいりました。

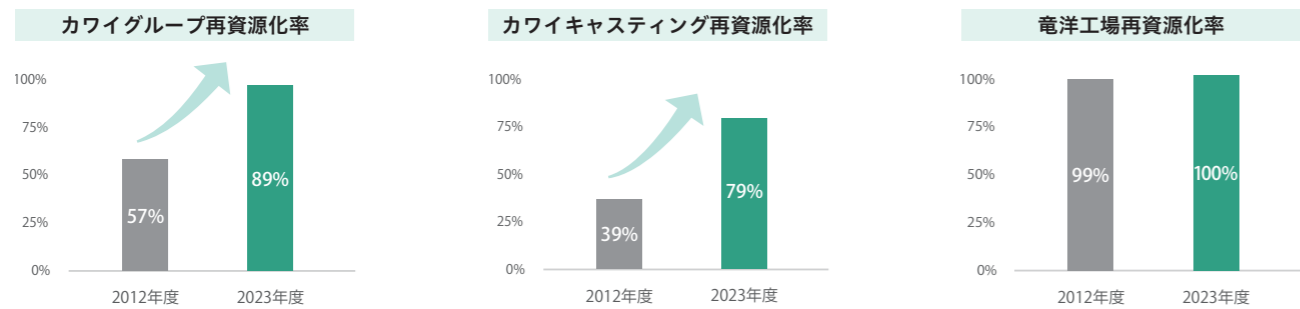
2023年度のカワイグループ全体の産業廃棄物排出量は、2,001tと前年度から4.2%減少しており、2012年度比でも37.5%削減、3ヶ年計画の基準年(2021年度)と同水準の排出となりました。



再資源化の取り組み

2012年度の(株)カワイキャストिंगの再資源化率は39%でしたが、鋳さいの路盤材などへの活用を進めたことにより、2023年度には79%に改善しています。これに伴い、カワイグループ全体の再資源化率は2012年度57%から2023年度89%まで向上しています。

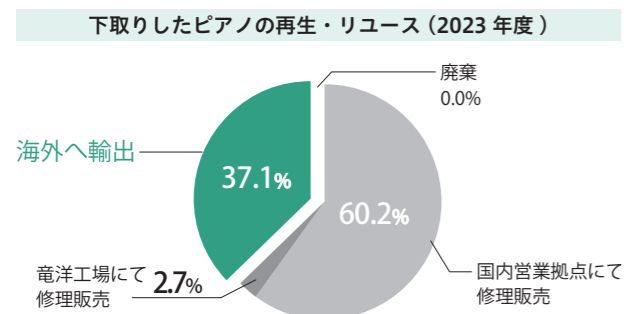
カワイグループ全体で産業廃棄物の排出量が最も多い竜洋工場では、産業廃棄物の木くず・木粉を製紙原料・ボード原料・堆肥・燃料等に、フェルト屑を堆肥等に、塗装廃棄物を無害な石に固め活用する等により、再資源化率100%を達成しています。



リサイクル・リユースの取り組み

循環型社会形成推進のための拡大生産者責任の考え方を踏まえて、ピアノの再生とリユースを推進しています。現在、国内統括部の中古ピアノ担当グループが竜洋工場内で本事業を担当しています。下取りしたピアノを再生し、新たなお客様のもとへお届けしています。

2023年度は国内で約700台のピアノが再生、リユースされました。そのうち、37.1%が輸出され、世界の各地で使われています。



メーカーによるピアノの修理・再生

メーカーだからできる仕事があります。ピアノづくりに精通した経験豊かな専任技術者により、古いピアノでも全面オーバーホールすることが可能です。弦・ハンマー・アクションの交換から全面塗装までお客様のニーズに応じたピアノ再生を行っています。

再生は、ピアノの製造部門で長年の経験を持ち、塗装技術、木工技術、調律技術など、その道の専門家がそれぞれ担当しています。その仕上がりは、多くのお客様から好評をいただいています。また、カワイ製ピアノについては純正パーツによる修理・再生も可能で、大きな魅力となっています。



植林・植樹

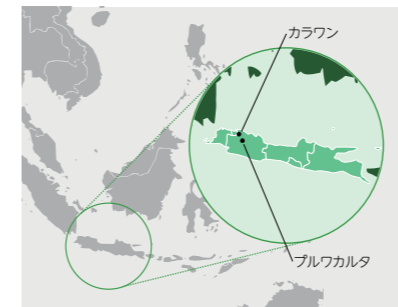
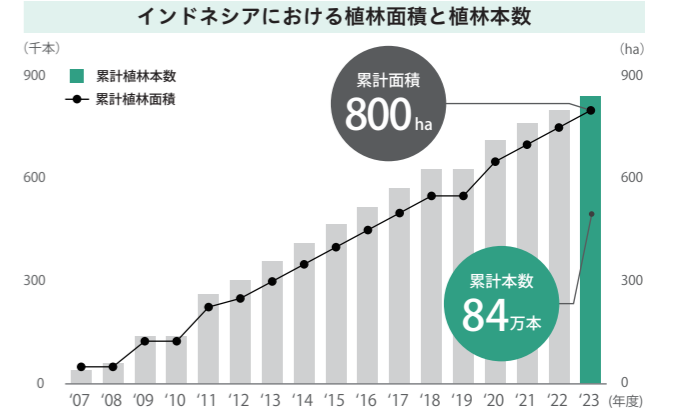
インドネシアの「カワイの森」植林活動

ピアノには多くの木材が使用されています。それらの木材を扱うカワイは創立80周年記念事業として2007年にカワイグループ社員の有志により、カワイの森育成会を設立しました。

カワイグループの地球環境憲章の基本理念に則り、CO₂の吸収源の確保、樹木が伐採された土地に森林を再生することや持続可能な木材資源の確保を目指して、PT.カワイインドネシアとインドネシア森林公社との連携のもと、海外生産拠点のあるインドネシアにおいてファルカタ、チーク、マホガニー等の植林活動を行っています。2017年度からは水産養殖等の目的で急速に破壊されたマングローブ林の再生活動にも取り組みをはじめました。

これらの活動はカラワン県やインドネシア西ジャワ州からも評価され、2018年から連続してCSRに関する表彰を受けています。

2023年度はカラワン県およびブルワカルタ県にて植林を行い、累計植林面積は約800ha、累計植林本数は約84万本になりました。ほとんどの樹木が順調に成長しており、このまま育成が進むと「カワイの森」により年間12,000t程度のCO₂の吸収効果が生まれ、カワイグループ全体のCO₂排出量の50%程度を吸収していくものと試算しています。



インドネシア「カワイの森」植林地



カラワンでの植林の様子



西ジャワ州からの表彰状

被災地の海岸防災林再生・保育

2015年から2019年にかけて『みどりのきずな』再生プロジェクトに参加し、東北地方での植樹を実施してきました。

2015年に植樹した宮城県東松島市矢本のクロマツは順調に生育しており、2023年11月および2024年3月には石巻地区森林組合の協力を得て除草を実施しました。

今後も木々の成長具合を確認し海岸防災林の再生・保育に努めていきます。



「森の中の緑の工房」竜洋工場

竜洋工場は、2020年に竣工40周年を迎えました。1997年にはピアノ業界で初となるISO14001を取得し、工場の環境方針には建設当初から推進している工場緑化を掲げています。現在では工場敷地の約50%が緑地化されています。工場の従業員によって植樹された約3万本の木々は長い歳月を経て成長し、「森の中の緑の工房」の名に相応しい緑豊かな工場となりました。



気候変動

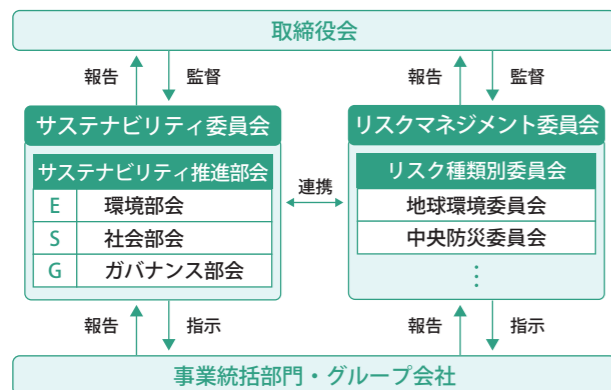
TCFD* 提言に基づく情報開示

私たちカワイグループは、経営理念「創造性豊かな好感度企業をめざして…」の実現に向け、地球環境と資源を守ると共に、真に豊かな心と社会の実現に向けて、取り組みを積極的に推進しております。環境分野での取り組みの中でも、気候変動や生物多様性の損失など地球を取り巻く環境問題は年々深刻になり、企業の果たす役割もより重要視されてきていることを認識しており、TCFD フレームワークを活用した気候変動リスク及び機会の特定及び対応策の策定と経営戦略への統合が、当社グループの持続的成長と企業価値向上に資するものと考え、TCFD ガイドラインに即した情報開示を進めております。今後はTCFD フレームワークに基づいて情報開示を進めると共に、CO₂ 排出量や廃棄物量の削減、植林活動を通じて気候変動を緩和し、2050年のカーボンニュートラルの達成を目指して貢献に努めてまいります。

*TCFDは「Task Force on Climate-related Financial Disclosures (気候関連財務情報開示タスクフォース)」の略で、気候関連の情報開示及び気候変動への金融機関の対応を検討するため、FSB(金融安定理事会)により設立されました

ガバナンス

カワイグループでは経営課題の一つにサステナビリティを定め、気候変動を含む持続可能な経営に関わる諸課題(サステナビリティ課題)の解決に貢献することを目指しております。サステナビリティに係る重要事項はサステナビリティ委員会にて審議を行ったうえで定期的(年に1回以上)に取締役会に報告を行うこととしています。取締役会はカワイグループのサステナビリティ課題への対応方針および実行計画などについての議論を行い、指示・監督を行ってまいります。そのうち気候変動に関わる諸課題は、サステナビリティ委員会の下部組織の1つである環境部会が担当しており、委員会の決定に基づいた事業統括部門・グループ会社の具体的活動の設定と実行を推進することで、取締役会での意思決定が適切に組織に反映される体制を整えてまいります。



リスク管理

カワイグループの気候変動を含むサステナビリティに関わる諸課題の管理体制及びプロセスについては、サステナビリティ委員会がその統括管理を実施することとしています。リスクの特定にあたっては各事業部からの報告をはじめ、サステナビリティに関する社会動向や外部要請を参考にサステナビリティ委員会が重要度の大きなリスクについて識別及び評価し、サステナビリティ活動に関する計画・目標を定めます。この設定した計画・目標に沿ったサステナビリティ活動を推進し、事業統括部門・グループ会社の具体的活動の指示及びモニタリングを実施することで、リスクの未然防止や影響規模の緩和を図ります。なお、これらのプロセスを経て特定されたリスクはリスクマネジメント委員会とも共有いたします。リスクマネジメント委員会ではその緊急性なども勘案しながら、短期的かつリスクの発生時対応を行う組織として必要に応じて個別に管理を行います。

戦略

カワイグループでは、気候変動が事業経営にどのような影響を与えるのかを検討し、重要課題への対応を経営戦略へと反映させることを目的として、シナリオ分析を通じた気候変動による影響評価を実施しています。気候変動に対する影響度及び対応策の考察・分析にあたっては、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)や国際エネルギー機関(IEA)が報告している各シナリオを参考に、以下のような将来世界の仮説から、2030年及び2050年時点でのカワイグループへの影響についてリスクと機会について考察を実施しています。リスクの発生時対応を行う組織として必要に応じて個別に管理を行います。

4°Cシナリオ	
産業革命期の世界平均気温と比較して21世紀末頃までに世界平均気温が4°C上昇すると仮定したシナリオ。気候変動政策は2021年時点で施行されている規制以上に強化されず脱炭素化への移行は推進されないため、温暖化の影響が拡大し災害の規模や頻度が拡大する。	
参考シナリオ	IPCC : RCP8.5 IEA2022 : STEPS
1.5°Cシナリオ	
産業革命期の世界平均気温と比較して21世紀末頃の世界平均気温の上昇が2°C未満に抑制されると仮定したシナリオ。カーボンニュートラルの実現に向けて、積極的な環境政策が推進されるために移行リスクによる影響が拡大する。	
参考シナリオ	IPCC : RCP2.6 IEA2022 : APS / NZE2050

項目	要因	2030年における影響		評価		現在の取り組み・対応方針
		事象	影響種別	4°Cシナリオ	1.5°Cシナリオ	
脱炭素社会への移行に伴う影響	カーボンプライシング	・炭素税導入による事業運営コストの増加 ・温室効果ガス排出量削減に伴う支出の増加	リスク	小	大	・CO ₂ 排出削減目標の設定と運用 ・製造設備における再生可能エネルギーの使用(太陽光パネル)
	電力価格の変化	・再生可能エネルギー由来発電への切り替え等による電力価格の増加 ・化石燃料需要の変化に伴う輸送コストの増加	リスク	中	中	・電力会社による定期的な省エネ診断の実施 ・LED照明への更新 ・省エネ工場設備の導入
	原材料価格の変化	・森林資源に対する規制や行動変化による木材価格の高騰 ・脱炭素への移行に伴う影響分の価格転嫁等による金属価格の高騰	リスク	小	大	・カワイグリーン調達ガイドラインの策定と運用 ・廃棄物削減及びリサイクル率の向上
地球温暖化に伴う物理的影響	異常気象災害の激甚化	・エンカル消費志向の拡大に伴う環境対応ニーズの拡大	機会	小	中	・地球環境憲章に基づく環境方針の策定と運用 ・再生材使用製品の優先的調達
地球温暖化に伴う物理的影響	異常気象災害の激甚化	・各拠点(営業所・事務所・研究所)の被災による損失の発生 ・サプライチェーンの寸断 ・水害、干ばつ、森林火災をはじめとした地域別リスクによる森林の被害と、木材原材料調達への影響	リスク	大	大	・BCP計画の策定と強化 ・中央防災対策委員会の設置
		平均気温の上昇	・地域別の木材生育悪化と品質劣化 ・野外活動制限や巣ごもり需要増加に伴う室内娯楽ニーズの拡大	リスク 機会	大	中

<影響度合い評価方法>
大:影響額が営業利益に対して3%以上のもの 中:影響額が3%に満たないもの 小:影響額が軽微、もしくは無いもの
※定量的な評価が困難な項目については、影響度合い評価方法で定める閾値に基づいて、参考としたパラメータや文献をもとに定性的に影響規模を分析しています

4°Cシナリオでは、異常気象の激甚化から自社施設の直接的な被害の増加や、サプライヤーの被災によるサプライチェーンの寸断、また当社製品の重要な資源である木材資源の減少を想定しております。その他、継続的な化石燃料の需要拡大などを背景に、石油由来原材料の価格高騰から輸送コストの増加も懸念され、主にサプライチェーンの上流側に関わる支出増加や損失の拡大が懸念されます。一方で、平均気温上昇による巣ごもり需要の増加は、室内で楽しめる楽器製品への需要を後押しする要因の1つとなる可能性も認識しています。

1.5°Cシナリオでは、脱炭素化に向けたカーボンプライシング導入による影響、再生可能エネルギー由来電力への切り替えに伴い、事業運営コストの増加が財務的にも影響を及ぼす可能性を想定しています。また、このような影響は当社のサプライヤーにも同様に求められることを想定しており、金属系素材をはじめ製品原材料の価格高騰も懸念されます。一方、環境負荷の少ない製品開発を通して、エンカル思考の高まった顧客の購買意欲を掻き立てる機会になると想定しており、製品の環境性能の向上が社会貢献と事業機会獲得の両軸で資するものと捉えています。

これらの分析結果を踏まえ、今後は気候変動影響に対するレジリエンス性を高めると同時に、経営の脱炭素化及びカーボンニュートラルの達成を見据え、引き続き取り組みを強化推進してまいります。なお、現在の取り組み状況としては、地球環境憲章を定め、現在も運用しているカワイグリーン調達ガイドライン、カワイ木材調達ガイドラインで定める資源の持続的な調達を目指し取り組みを推進しているほか、環境負荷低減に向けたCO₂ 排出量や廃棄物量の削減目標の策定と進捗管理を実施しております。

指標と目標

カワイグループは、SDGsへの取り組みの一環としてCO₂ 排出量の売上百万円あたりの原単位削減を経営目標の1つとして設定しており、当社グループの気候変動対応の取り組み状況の評価指標として引き続きその進捗を追っています。2022年度～2024年度の3ヶ年計画としては2021年度を基準年として毎年売上原単位あたりの排出量1%削減することを目指し運用しています。省エネルギーに配慮した工場設備の導入、LED照明への更新、太陽光発電設備の導入、クールビズ・ウォームビズ推進の結果、2023年度は2021年度比9.1%の減少となり目標を達成しています。今後は、2050年のカーボンニュートラル達成を見据え、中長期的な目標を設定し開示する予定です。なお、CO₂ 排出量実績については、表の通りです。

集計範囲	排出量実績 (t-CO ₂)			
	2021年度	2022年度	2023年度	
Scope1	6,131.4	6,123.3	4,810.4	
内訳	国内拠点	5,688.3	5,674.8	4,522.2
	海外拠点	443.1	448.5	288.2
Scope2	22,623.4	20,813.3	19,138.6	
内訳	国内拠点	16,442.6	14,916.2	14,099.5
	海外拠点	6,180.9	5,897.1	5,039.1
Scope1+Scope2	28,754.8	26,936.6	23,948.9	



社会

Social

音楽と教育を通じて次世代の成長を支え、多様な人材が活躍できる社会を創造することでより豊かでうるおいのある未来を築いてまいります



文化貢献

第4回 Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール



近年、数々の国際コンクールで公式ピアノとして採用されている「Shigeru Kawai グランドピアノ」。この名を冠した Shigeru Kawai 国際ピアノコンクールは 2017 年の当社創立 90 周年を記念して創設されました。このコンクールではすべての審査会で Shigeru Kawai グランドピアノを使用すること、また、ファイナルの課題曲が 2 台のピアノによるピアノ協奏曲であることを特色としています。

2023 年に開催された第 4 回のコンクールには、世界 21 の国と地域から 237 名のコンテストのエントリーがありました。8 月 5 日には厳正な審査を通過した 6 名のファイナリストの演奏が繰り広げられ、イタリアのニコラス ジャコメリさんが第 1 位に輝きました。

今後も引き続き本コンクールを通じて、次世代を担うピアニストを世界各地から発掘・育成するとともに、国際交流の推進や世界の音楽文化の振興を目指してまいります。

▶ Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール
<https://skipc.jp/>



カワイ音楽振興会

カワイ音楽振興会は日本の音楽文化の向上をめざして、1963 年に設立されました。「カワイコンサート」の開催をはじめ、海外著名演奏家や音楽教育家の招聘事業、国内一流音楽家のリサイタル・公開講座など多彩な催しを企画実施しています。また、音楽を通して広がる豊かで潤いのある社会を目指し、さまざまな音楽活動や文化活動の支援を行なっています。これからも、“Music for All”の理念のもと、様々な活動を通じてすべての人々に良質な音楽を提供していきます。

▶カワイ音楽振興会
<http://kawai-kma.com/>



KAWAI PREMIUM CONCERT

2023 年 11 月 5 日、東京のベルサール虎ノ門ホールで開催された「KAWAI プレミアムコンサート」は、第 5 回高松国際ピアノコンクールに出場した 7 人の才能あるピアニストたちを招いての華やかな演奏会となりました。

このコンサートでは、コンクールで入賞した青島周平さん、西本裕矢さんをはじめ、荒石果穂さん、水谷桃子さん、梅崎秀さん、山縣美季さん、佐藤元洋さんが、心を込めた演奏と、カワイフルコンサートピアノ「SK-EX」の美しい音色で聴衆を魅了しました。



青島 周平さん 西本 裕矢さん 荒石 果穂さん 水谷 桃子さん 梅崎 秀さん 山縣 美季さん 佐藤 元洋さん

各種音楽団体への支援

日本ショパン協会への支援

1960 年 8 月、フレデリック・ショパン生誕 150 年を記念してポーランドのショパン協会との交流のもとに設立。河合滋社長(当時)が名誉会長となり事務局を河合楽器製作所内に設置、ショパン国際ピアノコンクール等への支援を行っています。

▶日本ショパン協会

<http://chopin-society-japan.com/>



日本シマノフスキ協会への支援

1981 年、カール・シマノフスキ生誕 100 年記念の前年に設立。ポーランド人の民族性、土俗性が表現された作品を日本国内に広める活動を行っています。オーディション形式のコンサートや公開講座等も開催しています。

▶日本シマノフスキ協会

<http://kawai-kmf.com/szymanowski/>



クロイツァー記念会への支援

ドイツと日本で活躍したレオニード・クロイツァー教授の門下生および関係者により 1962 年 3 月に設立。日本の音楽界に対する功績を記念して「クロイツァー賞」を制定、受賞者による演奏会を 1976 年より毎年開催しています。また、2017 年より定期的に、東京藝術大学附属図書館所蔵 SP レコードで、クロイツァー教授の演奏を聴く蓄音機コンサートを行っています。

▶クロイツァー記念会

<http://kawai-kmf.com/kreutzer/>



教育・育成

カワイ音楽教室

カワイ音楽教室では、子どもたちの興味の芽を大切に、素直に表現する感性を育てるため、音楽教室を中心にさまざまな教育活動を展開しています。



カワイは音楽を通じて、一人ひとりかけがえない個性 (personality) を導きだします。そして、おたがいの個性を尊重しあう中から、他人 (ひと) と心を通わせ心を共振 (harmony) させる喜びを創りだします。

教育の理念

カワイ音楽教室の理念は音楽「を」学ぶのではなく、音楽「で」学ぶこと。ただ単に技術を習得して「うまく」なることだけを目的とせず、各コースの表現活動を通して個性を育み、より豊かな人格形成を目指します。

カワイ音楽教室

カワイ音楽教室は、音楽文化の普及を目指して1956年(昭和31年)にスタートしました。全国各地に4,000余の教室があり、カワイの音楽教育実績から生み出された多彩なコースで、多くの生徒さんが音楽と親しみ、自らの可能性を拓いています。



カワイおとなの音楽教室

高まる中高年の人々の生涯学習や余暇活動へのニーズに対応し、ピアノ、ボーカル、弦楽器、管楽器など、様々なコースを運営しています。自分の好きな曲をその人のレベルに合った内容で受講できることから、多くの受講者を集めています。



カワイ英語教室

カワイが開発したIMA (Imagination, Music, Action) 方式のカリキュラムに沿って、豊かな人間性をもつ講師とともに歌やゲームを楽しみながら生きた英語を身につけます。また、言葉の背景にある文化についても理解を促し、真の国際人を育てます。



カワイ絵画造形教室

画一的指導ではなく個人差やプロセスを重視しながら、子どもたちの独創性と創造力を豊かに育てています。紙や粘土、カワイ独自のピアノの木片など豊富な素材を使い、自由に創作活動に取り組むことができます。



▶カワイ音楽教室

<https://music.kawai.jp/>



カワイ音楽コンクール

1968年にスタートしたカワイ音楽コンクールは「技術の優劣よりも”自発的な音楽表現”を積極的に評価する」という理念に基づいています。このコンクールは「カワイピアノコンクール」、「カワイこどもピアノコンクール」、「カワイうたのコンクール」の3つからなり、半世紀以上にわたり多くのピアニストたちを輩出してきました。

2023年8月には「横浜みなとみらいホール」にて56回目となるカワイピアノコンクール全国大会(連弾部門・ソロ部門)を開催いたしました。この全国大会には、21,000名を超える予選参加者の中から厳しい審査を通過した96名が会場に、ホールには日頃練習を積み重ねてきた未来を担うピアニストたちの音楽が響き渡りました。

ソロ部門の大賞受賞者には、国内外著名ピアニストや音楽大学教授等による特別レッスンなど様々な育成支援の機会を提供し、演奏家としてのより一層の成長をサポートしてまいります。



海外での音楽教室展開

海外ではインドネシアを中心に中国、タイ、ベトナム、台湾のアジア地域でも音楽教室を展開しています。音楽教室では通常のレッスンの他、様々なイベントを開催しています。習熟度をはかるグレードテスト、年齢や経験・目的に応じたコンクール、レッスンの成果披露の場としてのコンサート、入会前のレッスン体験や保護者への説明会などを通じて音楽教育の普及に努めています。

また、講師を対象とした音楽教育セミナーや研修などを実施し、現地教育者の人材育成を推進しています。



▶KAWAI MUSIC SCHOOL GLOBAL (英語サイト)

<https://musicschool.kawai-global.com/>

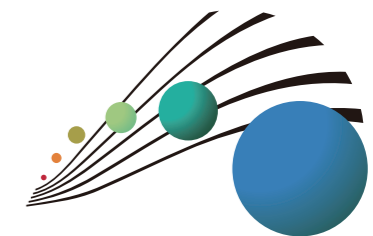


KAWAI MUSIC SCHOOL PIANO COMPETITION

KAWAI MUSIC SCHOOL PIANO COMPETITION は、アジア地域への音楽教育の普及・浸透を目的として創設されました。

インドネシア・中国・タイ・台湾・ベトナムのカワイ音楽教室の生徒を対象としたこのコンクールは、カワイのオリジナルの教育メソッドであるサウンドツリーを基準としたソロ部門と連弾部門の9つのカテゴリーに分かれ、各地域の予選会を経て本選会へ参加する形となっています。審査は技術だけでなく自己の表現、レッスンの成果が表れているかなどに焦点をあてて評価しています。

コンクールの規模は回を重ねるごとに大きくなり、それに伴い参加人数も増加。第3回となる今回は998名がエントリーし、飛躍的な拡がりを見せています。



体育・スポーツ教室

子どもを対象とした体育コースやスポーツコースでは運動能力の発達や技術の向上はもちろん、集団でのレッスンの中で協力して目標に向かったり、互いに励ましあったりすることで社会性を養うことなど、「からだの面」、「こころの面」、「知的な面」の3つの要素を重要視した指導を行い、人間的豊かさにあふれる人の育成をサポートしています。

カワイ体育教室で重要視する3つの要素

体育コース

2オクラス、幼児クラスなど、年少から年長のお子様を対象に各年次の発達、発達に即した運動あそびを経験することで楽しみながら運動技能を身につけるコースです。運動に関する創造性、積極性、できる喜び等を育てます。

スポーツコース

器械体操・新体操・サッカーなどスポーツの基礎を身につけるコースです。技術だけではなく、ルールを学び、人とのコミュニケーションを学べるコースで一人ひとりの能力や、からだの発達と発育を考慮した指導を行っています。

カワイヘルスプロモーションサポートシステム

カワイは、体育教室をはじめとした健康づくりのサポートを全国で展開してから50年以上になります。このキャリアとノウハウを広く社会に公開・提供するのも一つの役目と考えています。

未就園児から高齢者まで、楽しみながら健康の維持・促進を図り、しかも測定データや最新機器を駆使し科学的にサポートする「カワイヘルスプロモーションサポートシステム」を構築し、さまざまなステージでの、健康づくりをサポートしています。

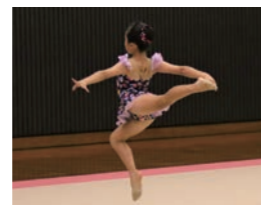


スポーツコミュニティ

カワイ体育教室では、トップアスリートと触れ合う機会として「スポーツコミュニティ」を展開し、未来を担う子どもたちの健全な育成を図っています。

カワイカップ

2023年8月、「カワイカップ全国新体操競技大会」が浜松アリーナにて開催されました。新体操クラス チーフアドバイザーの川本ゆかりさんも見守る中、全国から集まったカワイ体育教室新体操クラスの選手たちは日頃のレッスンの成果を発揮してくれました。また9月には「カワイカップ器械体操競技会」も同じく浜松アリーナにて開催され、多くの参加者がマットとび箱の種目で競い合いました。



新体操競技会の様子

カワイ体育教室 スタッフ紹介



チーフアドバイザー
水鳥 寿思 さん

2004年アテネオリンピック体操男子団体総合金メダリスト。現役を引退後カワイ体育教室のチーフアドバイザーに就任しました。各地区での講話や実技披露など、運動の楽しさを広めるとともに、幼児・児童の体力強化や大人の健康増進に向けた運動プログラムの監修にもあたっています。



新体操クラス チーフアドバイザー
川本 ゆかり さん

1992年バルセロナオリンピック出場。カワイ体育教室の新体操クラスのチーフアドバイザーとして、カリキュラム開発や指導者の育成を担当しています。スポーツコミュニティも担当しています。

人財育成

人財育成基本方針

カワイグループでは、「従業員一人ひとりが能力を発揮することがカワイグループとしての成長につながる」という考えのもと、人財こそが最大の資産と捉え、人財育成を時代の変化に対応できる企業となるための重要な戦略課題と位置づけています。従業員一人ひとりが能力を発揮できる仕組みや環境を整備し、企業としての持続的な成長を図ってまいります。

人財育成体系

基本方針のもと、従業員が自らのキャリアを創り自主的に成長していく姿勢を醸成するべく人財育成を行っています。

	階層別研修	職種別研修 (各部門主導)	自己啓発支援	共通
経営層	新任取締役研修		通信教育・eラーニング	マイライフプラン研修 コンプライアンス研修 女性キャリアアップ研修 ダイバーシティ研修
管理層	新任執行役員研修			
	次世代経営幹部候補者選抜育成			
	新任管理者研修			
監督層	管理者候補研修	<ul style="list-style-type: none"> 営業部門 (マーケティング部門) 生産部門 (品質・多能工化等) 音教/体育 スタッフ部門 技術/開発 		
	新任監督者研修			
一般層	若手育成強化		キャリア形成支援	
	6年次研修			
	3年次研修			
	フォローアップ研修			
	新入社員研修			

階層別研修

各階層において求められる基礎知識の習得と役割認識を深めるため、一般層から経営層に至るまで階層別研修を行っています。特に若手従業員の育成に力を入れており、6年次までの年次別研修を行うと共に、キャリア形成支援としてジョブローテーションを実施して職域拡大を図り、企業力の強化に繋げています。

職種別研修

各部門主導で職種別研修を実施し、職種に応じて従業員の専門性を深め、スキルアップするための教育を定期的に行っています。

その他

自己啓発支援のため、通信教育に加え、eラーニングを導入しています。また、各階層に共通するものとして、多様性確保のためのダイバーシティ研修や女性のキャリアアップ研修等を実施し、企業全体として時代の変化に対応できる力を養うための教育を行っています。

ダイバーシティ

ダイバーシティ基本方針

カワイグループでは、女性、外国人、様々な職歴を持つ中途採用者など、人材の多様性を確保することが企業価値の向上につながると考えております。多様な人材の採用・中核人材への登用を積極的に行い、それぞれの特性や能力が最大限発揮されるような職場環境の整備を行うことで、新たな価値を生み出す組織風土を醸成します。

ダイバーシティ推進の年度別実績と目標

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2025年度3月末(目標)
女性管理職比率(%)	2.4	2.1	3.3	6.7	6.7	12.5
女性監督職比率(%)	10.9	11.7	12.9	14.2	16.8	20.0
外国人従業員数(名)	7	8	9	12	11	15
中途採用者数(名)	39	42	46	55	81	50

※上記目標は(株)河合楽器製作所のものであり、グループ会社を除く

女性活躍推進

カワイグループでは、2019年より女性活躍推進プロジェクト『Love it!』を立ち上げ、誰もが働きやすい職場づくりを目指してワークライフバランスを実現するために活動をしています。

育児・介護と仕事の両立支援研修やイクボス研修の実施、男性の育児休業取得促進やワークライフバランスガイドブック刊行、ライフサポート休暇の新設。また、部門を横断したサポーターチームによる女性活躍推進に関する提言活動や女性管理職による座談会や研修の実施、女性活躍に関するニューズレターの定期的発行など様々な取り組みを行っています。

このような活動が認められ、2021年1月には「えるぼし認定(二つ星)」を取得しています。

※えるぼし認定：女性活躍推進法に基づき女性従業員の活躍推進に関する取り組み状況に応じた厚生労働大臣からの認定制度のこと



女性管理者研修の様子



グローバル人材の育成と中途採用の強化

国内拠点におけるグローバル人材の採用、育成、登用を強化しております。日本を除く世界各地に13か所の海外拠点があり、現地採用スタッフも活躍しています。今後は、海外駐在者候補となる人材を育成するため、若手社員を中心に海外拠点への短期研修を実施し、グループ全体で基盤整備を行ってまいります。

また、近年より中途採用を積極的に実施しており、2019年度から2023年度までの5年間で中途採用者の合計が33名増加しました。監督層などの中核人材としての採用も行っており、専門的なスキルを持った即戦力のある人材が活躍しています。

障がい者雇用

カワイグループは、近隣の特別支援学校のご協力のもと、実習による業務の適性を考慮した障がい者雇用を継続しています。2015年度から9年連続で法定雇用率をクリアしており、2023年度の雇用率も2.72%と、法定雇用率の2.30%を上回っています。今後も企業として地域とのつながりを重視しながら、社会的責任を果たしてまいります。

ワークライフバランス

ワークライフバランスの推進

カワイグループでは、経営の理念の中で掲げている「社員を大切にし、明るい企業をめざします」に基づき、多様な働き方をサポートする各種制度を整備し、社員が働きやすい環境づくりを進めています。

また、女性活躍推進プロジェクト「Love it!」による、仕事と生活の両立を支援する制度をライフイベント別に分かりやすく説明したワークライフバランスガイドブックの発行など、制度の拡充や周知、利用促進にも努めています。

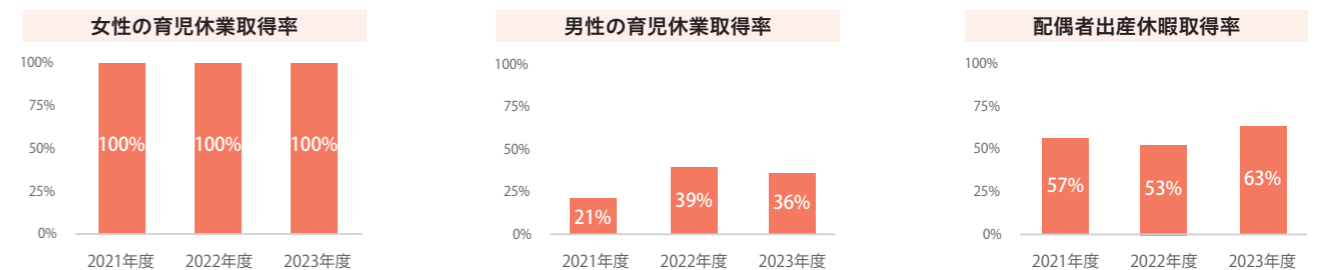


仕事と生活の両立支援制度

制度	内容	
特別休暇	メモリアル休暇	1年に1日、誕生日に取得できる
	ライフサポート休暇	従業員とその家族のライフイベントのために年間2日取得できる
	リフレッシュ休暇	勤続5年ごとに連続5日間取得できる
	裁判員休暇	裁判員または裁判員候補者として裁判所に出頭するために取得できる
介護サポート	介護休業	家族の介護のため最長1年間取得できる
	介護短時間勤務	家族の介護のため最長3年間、1日の労働時間を短縮して勤務できる
	時間外勤務の免除制度/制限措置	時間外勤務の免除/月24時間、年間150時間を超える時間外勤務の免除措置を受けることができる
	深夜業の制限措置	午後10時から午前5時までの業務の免除措置を受けることができる
妊娠/出産/育児サポート	介護休暇	家族の介護のため1年に5日間取得できる
	母性健康管理のための休暇等	通勤の緩和、時差出勤・勤務時間の短縮、就業時間内の通院、休憩時間の延長、作業内容の軽減、勤務時間の短縮などの制度を利用できる
	産前産後休暇	産前42日前から、産後56日まで取得できる
	配偶者出産休暇	配偶者の妊娠の申出から出産後1週間のうちに、最大2日間取得できる
	出生時育児休業	子どもの出生後8週間のうちに、最大4週間取得できる
	育児休業	子どもが満2歳になるまで、育児のために利用できる
	育児短時間勤務	育児のために労働時間を短縮して勤務することができる
	時間外勤務の免除制度/制限措置	時間外勤務の免除/月24時間、年間150時間を超える時間外勤務の免除措置を受けることができる
	深夜業の制限措置	午後10時から午前5時までの業務の免除措置を受けることができる
	子の看護休暇	子どもの負傷や疾病の世話、予防注射や健康診断のために取得できる
育児時間	休憩時間の他に1日に2回、育児のための時間をとることができる	

育児休業取得推進

働きながらの子育てをサポートする制度として、1992年から育児休業制度を導入しています。2023年度の女性の取得率は2018年から100%を継続しています。男性の取得率については36%と昨年度の39%から横ばい、配偶者出産休暇の取得率については昨年度の53%から向上し63%となっています。これからも、取得率向上と働きやすい職場環境の整備に努めてまいります。



健康経営

健康経営宣言

カワイグループでは、従業員の健康管理を経営的な視点から考え、戦略的に「健康経営」を推進していくため「健康経営宣言」を制定しました。

カワイグループは、カワイで働くすべての人とその家族の心身の健康こそが、経営の理念で定める「創造性豊かな好感度企業を目指す」ための礎であり、当グループおよび社会にとっての大切な財産であると考えます。

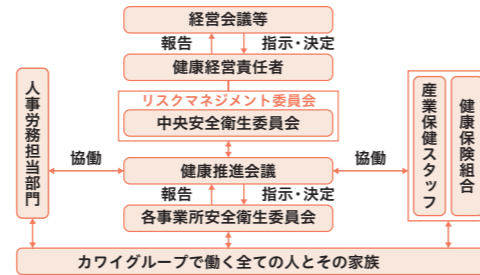
そのために、従業員一人ひとりが「音楽文化の担い手」として、持てる能力を最大限に発揮するとともに、働きがいを創造し、創業以来継続してきた音楽文化への貢献を継続・推進できるよう、会社、健康保険組合が一体となり、従業員およびその家族の健康維持・増進のための活動を積極的に支援してまいります。

そして、従業員が能力を最大限に発揮し、いきいきと活躍することで、事業活動を通じて、幅広く人々の生活文化・音楽文化に貢献していくことを宣言します。

健康経営推進体制

健康経営宣言のもと、人事労務部門の担当役員が「健康経営責任者」となり、健康経営を牽引するとともに、人事労務担当部門が中心となり、各事業所長・労働組合の代表者をメンバーとした中央安全衛生委員会をはじめ、産業保健スタッフ、健康保険組合とも連携し、従業員およびその家族の健康づくりを推進してまいります。

また、従業員の健康管理の実施状況について、定期的に経営会議等に報告し、全社一丸となり従業員の健康づくりを促進してまいります。



従業員の健康維持の取り組み

取り組み	内容
定期健康診断	受診率 100% 継続。40 歳以上は人間ドック負担。婦人科検診率 8 割超。再検査率 94.4%
歯科検診	医療機関で歯科検診を受診した際、健康保険組合から補助金を給付
ストレスチェック	50 名未満の事業所も含めた全従業員を対象にストレスチェックと集団分析を実施
健康相談	高ストレスや過重労働従業員への産業医・保健師による月次相談。若手への健康研修・相談で離職防止
喫煙対策	面談や禁煙外来の紹介を通じた支援。禁煙を促すための「禁煙チャレンジデー」を実施
健康セミナー	健康保険組合と共同で毎年 1 回健康セミナーを開催。2023 年度は野菜摂取量を把握し食生活の改善
ウォーキングイベント	従業員とその家族を対象とし、運動習慣の定着・向上のために毎年 1 回イベントを開催

健康経営優良法人認定

当社は経済産業省と日本健康会議が共同で選出する「健康経営優良法人 2024（大規模法人部門）」に 2020 年から継続して認定されています。

健康経営優良法人制度は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。



労働安全衛生

生産拠点の安全管理

各生産拠点の機械設備や作業環境の安全性をチェックするため、事業所毎に設置されている安全衛生委員会による巡視を実施しています。ピアノ生産の中心を担う竜洋工場においては「5S パトロール」を毎週月曜日に必ず実施し、全行程の安全確認をしています。改善が必要な箇所があった場合には各工程の責任者と連携して迅速な改善を図るなど、生産現場の安全性向上に努めています。



竜洋工場での 5S パトロールの様子

特殊健康診断

疾病リスクのある業務従事者が対象となる特殊健康診断の確実な実施のため、各事業所の担当者と連携し異動や作業内容変更の都度、対象者を確認しています。特殊健診の結果に応じ、産業医や保健師による巡視や面談を行い、就業場所の変更や作業の転換など従業員の健康状態に配慮した適切な対応に努めています。

安全衛生教育

労働災害の防止を目的として、従業員に対し安全衛生に関する教育を行っています。特に新入社員に対しては、配属前に実施される新入社員研修において安全衛生教育に関する講義の時間を設けており、配属までに安全衛生に関する知識をしっかりと提供できるように取り組みをしています。また、配置転換、労働災害発生の際、各事業所において安全衛生教育を実施し、常に安全衛生意識を念頭に置いた事業活動を推進しています。

身体機能測定会

従業員自身の健康増進や運動習慣の定着・向上、そして労災発生リスクの低減等のために、1 年毎に各工場をローテーションで当社体育事業部による転倒リスク改善プログラムを実施しています。

労働災害統計

国内における 2023 年度の労働災害発生状況は、本社・工場・関係会社では計 11 件（うち休業・障害災害 1 件）、全国支店管内では計 7 件（うち休業・障害災害 0 件）となりました。業務上の死亡者はありません。

災害内容と対策

災害内容	対策
非定常作業中における人力機械工具に起因した切創	作業教育の受講者のみ作業を行うというルールを策定
運搬作業中の転倒による一般動力機械に起因した切創	転倒の原因となった器具の管理方法を改善、全工程に横展開

社会貢献

地域貢献活動

カワイグループは、地域社会の一員として、地域との交流を深めると共に、地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでいます。

■ 地域活動への参加

地域の清掃活動に参加し交流を深めています。



浜名湖周辺の清掃活動（浜名湖クリーン作戦）

■ 地域との協働

浜松市の道路・河川里親制度に参加し、本社周辺道路の清掃活動を行っています。また、静岡県と協定を結び防災林の整備にも取り組んでいます。



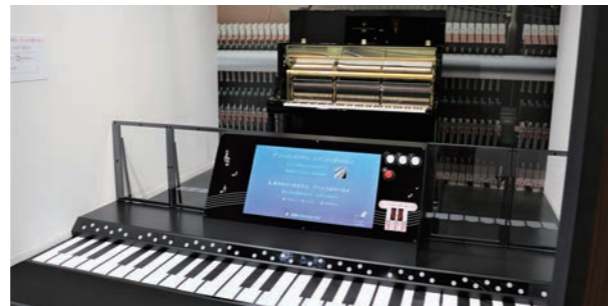
本社周辺の道路の清掃活動



遠州灘防潮堤防災林の整備

■ 浜松市科学館への協力

浜松科学館の開館当初より常設展示に協力しており、2022年にはお子様が遊びながらピアノの鍵盤の動きや構造を学べる展示にリニューアルいたしました。



浜松科学館 河合楽器ブース「ピアノアクション」

▶ 浜松科学館カワイ展示ブースリニューアル
(ニュースリリース)

<https://www.kawai.co.jp/news/20220907/>



■ 工場見学の受け入れ

竜洋工場では、地域の小中学生や高校生、その他多くの方々の見学を受け入れています。見学ではグランドピアノの組立工程をご覧くださいことができます。

見学後の小学生からは嬉しい感想をいただいています。



工場見学後にいただいた感想の数々

▶ 工場見学は当社 Web サイトからご予約いただけます

<https://www.kawai.jp/ryuyofactory/>



工場のご見学に関するお問い合わせ

竜洋工場（ピアノ事業部 業務室） 静岡県磐田市飛平松 252
TEL: 0538-66-5111 FAX: 0538-66-5919

品質・顧客満足

品質・サービス向上の推進

カワイグループでは、経営の理念のひとつである「お客様の満足を第一に商品・サービスを提供します」の実現のために、法令順守はもとより、品質の継続的な改善による製品およびサービスのさらなる向上が必須と考えています。

国内外の主要な工場では品質マネジメントシステム ISO9001 を導入しており、また品質に関する不具合や異常を未然に防ぐために品質会議を毎月開催し社内の情報共有の強化と迅速な対応に努めています。

■ 品質マネジメントシステム

カワイでは、品質およびサービスの維持向上のために品質マネジメントシステム ISO9001 の導入を推進しています。品質マネジメントシステムで要求されている PCDA サイクルをまわすことで、品質・サービスの継続的な改善に取り組んでいます。

現在、国内では竜洋工場、(株)カワイハイパーウッド、カワイ精密金属(株)が認証を取得し、海外では PT. カワイインドネシア 第1・第2・第3工場、上海カワイ電子有限公司、河合楽器（寧波）有限公司が認証を取得しています。

品質マネジメントシステム導入拠点一覧

導入年	導入拠点
1997年	カワイ精密金属(株) 浜松事業所 (ISO9002 認証取得)
2003年	カワイ精密金属(株) 浜松事業所 (ISO9001 認証取得)
2004年	カワイ精密金属(株) (ISO9001 認証を全社に拡大)
2005年	竜洋工場 (ISO9001 認証取得)
2008年	河合楽器（寧波）有限公司 (ISO9001 認証取得) PT. カワイインドネシア第3工場 (ISO9001 認証取得)
2009年	PT. カワイインドネシア第1・第2工場 (ISO9001 認証取得)
2013年	上海カワイ電子有限公司 (ISO9001 認証取得)
2016年	(株)カワイハイパーウッド (ISO9001 認証取得)

お客様満足度向上の取り組み

■ お客様相談室

楽器購入前のご相談、購入後の楽器のご使用方法に関するご相談、品質に関するご相談等、お客様から寄せられる様々なご質問に誠実で迅速な対応を行うべく、お客様相談室で受付を行っています。音楽を愛するスタッフが皆様にとってかけがえのないパートナーを目指してサービスに努めています。

いただいたご意見は総合的に分析し社内にフィードバックすることで、製品の品質やサービスの改善に活かしています。

▶ お客様相談室 TEL: 053-457-1311

受付時間: 9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00 (土曜、日曜、祝日および弊社規定の休日を除きます)

■ お客様サポートサイト

カワイお客様サポートサイトでは、ピアノの修理や調律、各種製品の修理などのアフターサービス、カタログや取扱い説明書、プログラム更新等の各種データのダウンロード、カワイピアノ、デジタルピアノ等のカタログ請求や試弾のご予約、見積依頼のためのサポートサイトをホームページ上に設けてサービスに努めています。

▶ お客様サポート

<https://www.kawai.jp/support/>





経営の公平性と透明性を確立し、リスクの管理と法令を遵守することで、持続可能な企業価値を生み出す健全なガバナンス体制を推進してまいります

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス基本方針

目的およびコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

株式会社河合楽器製作所グループは、「経営の理念」に基づき、持続的な企業価値の向上を実現するために、コーポレート・ガバナンス基本方針を制定し、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組みます。

この基本方針では、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方やステークホルダーとの関係、コーポレート・ガバナンス体制など、6つの章に定めています。

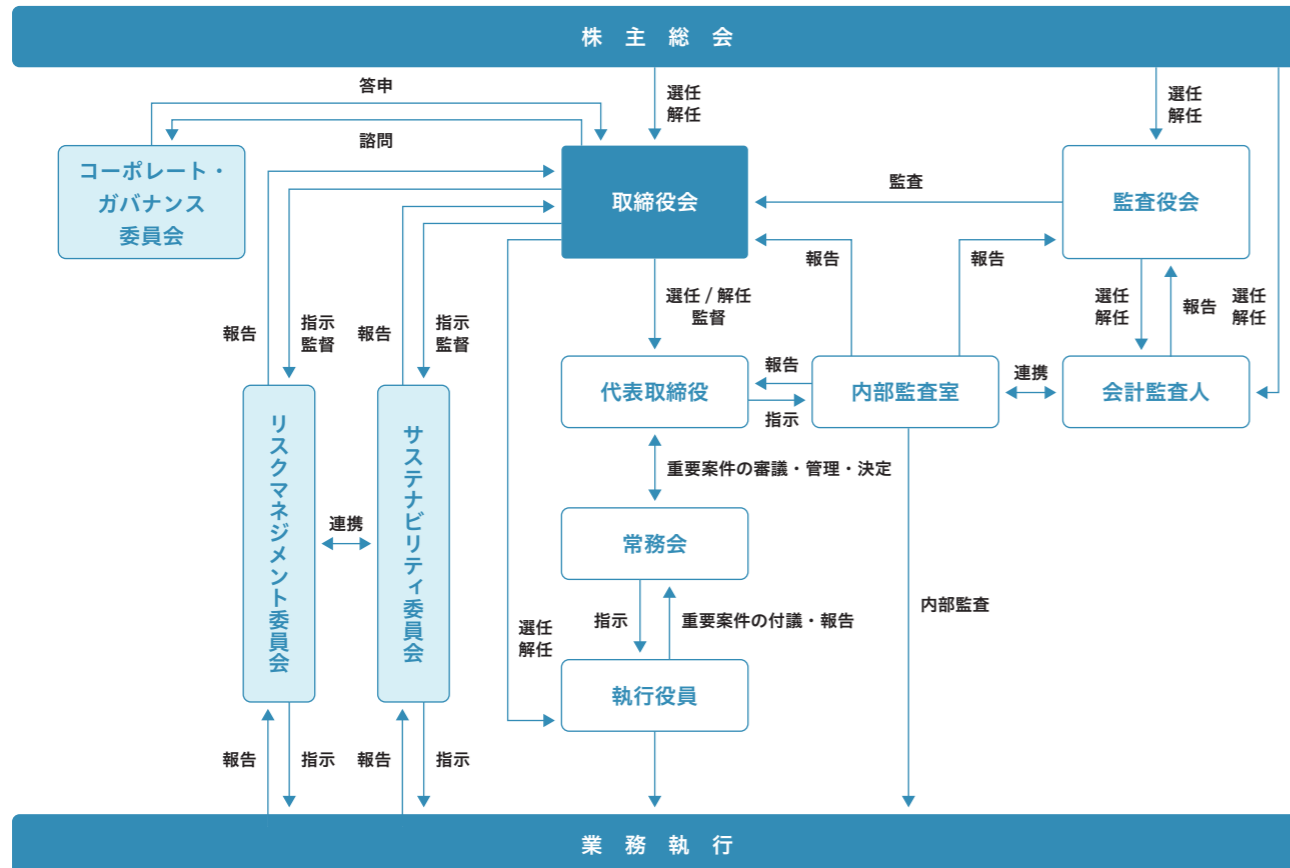
▶コーポレート・ガバナンス基本方針

https://www.kawai.co.jp/csr/governance/corporate_governance/



コーポレート・ガバナンス体制

当社のコーポレート・ガバナンス体制および内部統制体制は下図のとおりです。



コーポレート・ガバナンス体制の状況

当社は、監査役会設置会社の体制を採用していますが、取締役による的確な意思決定と迅速な業務執行とともに、適正な監督および監視を可能とするガバナンス体制を構築しており、一層のコーポレート・ガバナンスの充実に向け実効性を高める運営プロセスを整備しています。

取締役会

社外取締役を含む取締役で構成。社外取締役には客観的な立場から取締役会における意思決定の妥当性及び取締役会の職務執行について大局的な視点で助言、監督をいただき、経営の透明性を高めています。また、2002年4月より導入した執行役員制度を2005年6月に改編し、取締役にも執行役員を兼務させる体制とし、全社的課題への対応力の強化を図るとともに、業務執行における責任の明確化および指揮命令系統の充実に図りました。

監査役会

社外監査役を含む監査役で構成。監査役会は、監査方針と分担を定め、各監査役はこれに従い、定期的に各業務執行部門、グループ会社の監査を実施するとともに、取締役会をはじめ重要な会議に出席し、的確な状況の把握と意見具申を行い取締役の職務執行状況の監査機能の充実に図っています。

サステナビリティ委員会

企業の中長期的な持続可能性に関する課題に対して、経営環境、企業価値への影響等を踏まえ、グループ全体のサステナビリティ活動を推進することを目的として、サステナビリティ委員会を取締役会の直下の組織として設置。サステナビリティに係る重要事項はサステナビリティ委員会にて審議を行ったうえで定期的に取締役会に報告を行っています。

コーポレート・ガバナンス委員会

取締役会の諮問機関として「コーポレート・ガバナンス委員会」を設置し、取締役候補者の選定に関する事項や、取締役の報酬に関する事項、その他コーポレート・ガバナンスの向上に関し審議し取締役会に答申、報告を行っています。

経営会議体

全社的課題を審議するステアリング・コミティ、執行役員業務執行状況や各部門の生産・販売状況を確認し、重点戦略の評価および検討を行う事業別や地域別の各戦略会議等を設置して戦略モニタリング・コントロール機能を確保しています。

内部監査

「内部監査室」を設置し、カワイグループの業務活動全般に関して、業務執行が適法、適正かつ合理的に行われているかどうかを監査するとともに、会社資源の活用状況、法令・社内規程の遵守状況についての監査を行っています。

内部統制システムに関する基本的な考え方

カワイでは「経営の理念」および「行動指針」を策定し、業務運営の指針としており、併せて中期計画に掲げた目標の達成に向けて、各組織が予め定められた役割に従い、法令や定款に則って効率的に戦略遂行できる体制構築を目指しています。

また、法律問題につきましては、分野ごとに恒常的に複数の法律事務所と顧問契約を締結した上で適法性の確保に努めています。内部統制システムについては、企業価値向上のためのコーポレート・ガバナンスの一環としてその重要性を認識し、2006年5月12日に取締役会で決議しました「内部統制システムの構築に関する基本方針」を、2015年5月1日から施行された改正会社法の改正主旨に合わせ、2015年5月14日開催の取締役会で一部改定することを決議しており、この決議に基づき内部統制システムの整備を推進しています。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

反社会的勢力を社会から排除していくことは、治安対策上重要なことであり、企業にとっても社会的責任の観点から必要であり、また、反社会的勢力が従業員を含めた企業自身に多大な被害を生じさせるものであることから、企業防衛の観点からも必要なものです。このような観点から、当社は反社会的勢力による被害を防止するため、コンプライアンス体制及び内部統制システムの一環としての体制整備に努めています。

取締役の専門性・多様性

当社では、グローバルでの成長、競争力強化、著しいビジネス環境の変化に迅速に対応するために、取締役・監査役の多様化に努めています。また、取締役会全体として「企業経営」「法務・リスク管理」「財務・会計」「製造・技術」「営業マーケティング」「グローバル」および「業界知識（音楽・楽器）」の知識、経験、能力をバランスよく備えることで、変化の激しい経営環境に迅速・的確に対応しスピーディーな意思決定を目指しています。

氏名	期待される知識・経験・能力						
	企業経営	法務 リスク管理	財務・会計	製造・技術	営業 マーケティング	グローバル	業界知識 (音楽・楽器)
代表取締役社長 河合 健太郎	●		●	●	●	●	●
取締役副社長 伊藤 照幸		●	●		●		
専務取締役 牛尾 浩	●			●		●	●
常務取締役 箕輪 匡文				●		●	
常務取締役 森 直樹	●				●	●	●
社外取締役 片桐 一成		●					
社外取締役 後藤 康雄	●	●	●				
社外取締役 村松 奈緒美		●					

取締役会の実効性評価

当社では、コーポレート・ガバナンスの実効性を高めるための取り組みの一環として、取締役会の運営の改善・機能向上を目的に、取締役会の実効性に関する評価を毎年実施しております。2024年3月期に実施しました実効性評価について、以下のとおり概要をお知らせいたします。

■ 実施内容

取締役会を構成する取締役・監査役（全12名）を対象にアンケート形式で調査を実施しました。2024年3月期においては、前年に引き続きその実効性を中立的・客観的に検証するため、外部機関を活用したアンケートを実施し、その集計結果に基づく分析報告を踏まえ評価を行いました。

■ 分析・評価結果

- 全体として概ね肯定的な評価が得られており、取締役会の実効性が確保されていると判断しました。
- 前回と同様の質問においては半数以上で評価の改善が見られました。中でも、社外取締役の増員や女性取締役の登用により取締役会の構成が変化したことに伴い、建設的な議論・意見交換の増加等、取締役会の運営や議論の項目において改善が見られました。
- 一方、サステナビリティ対応や資本コストの改善に向けた取締役会としての取り組みについては、重点的に検討を深めるべき課題として確認しました。
- また、役員に求められるトレーニングの機会提供、取締役会とコーポレート・ガバナンス委員会の連携についても、引き続き運営の工夫が必要であることを確認しました。

■ 実効性向上へ向けた今後の取り組み

本実効性評価を踏まえた今後の取り組みについては、経営課題に対する議論の深化に向けて、議論に必要な情報提供や事前説明等を行い、役員に求められる役割と責務を果たすために必要とする知識の習得機会に対する支援体制を強化し、取締役会とコーポレート・ガバナンス委員会の連携強化を図る等、取締役会の実効性を高める取り組みを継続的に進めてまいります。

リスクマネジメント

リスク管理体制

カワイのリスク管理体制は、業務執行に伴うリスクを未然に防止することを第一とし、リスクが顕在化した場合には、社会的、経営的な影響を最小限にとどめるため、職制により組織的に対応するものから必要に応じグループ全体を対象とした委員会等を設置するなど、機動的な対応に努めています。

リスクマネジメント委員会

リスクマネジメント委員会は、カワイグループ全体のリスクへの対応のために、規程類の整備、運用状況の確認、要員の訓練、研修等を企画実行するとともに全社リスク管理状況を定期的に取締役会に報告しています。

傘下に下記分野別の各委員会を設置するとともに、不測の事態が発生した場合には、「緊急対策本部」をただちに設置し、迅速な対応と損害の拡大の防止にあたるものとしています。

■ 地球環境委員会

「地球環境憲章」、「カワイ環境方針」、「グリーン調達ガイドライン」、「木材調達ガイドライン」等を制定し、また環境に関する法令の遵守はもとより環境保全の目的・目標を定め環境汚染によるリスクの軽減に努めています。

■ 製品安全対策委員会

万が一、市場に出た当社の製品に安全上の不具合があり、それが原因でお客様の生命身体に危害が及んだり、その可能性があると判断されるときに、お客様への告知、行政機関への報告、製品の回収といった対策を迅速に実行し、お客様への被害を最小限に止める諸活動を行っています。

■ 中央防災対策委員会

カワイグループにおける火災、風水害、その他の災害の予防対策確立及び災害発生時の被害を最小限に止めるための諸活動を行っています。

■ 海外安全対策委員会

海外子会社、海外駐在員並びに海外出張者のリスク管理を行っています。

■ 情報セキュリティ委員会

情報資産の機密性、完全性、可用性の確保、維持を全社的な立場で統括管理しています。

■ 中央安全衛生委員会

カワイグループの従業員の安全衛生意識の高揚を図り、災害及び疾病を予防するための諸活動を行っています。

■ 企業倫理委員会

コンプライアンスに関する基本方針の審議を行い決定し、その方針の進捗状況を確認したり、コンプライアンスに関する規程・マニュアルなどの制定を行っています。またその他に法令、企業倫理に関わる違反案件があったときは、その応策の協議を行い経営層への具申を行います。

BCP（事業継続計画）

カワイは、大規模地震等の緊急事態が発生した際に、従業員の安全を確保し、事業資産への被害を最小限に食い止め、当社の事業を継続させ、いち早く全ての事業を完全に復旧させるために、平常時や緊急時における様々な対策や方法をまとめたBCP（事業継続計画）を策定しています。BCPを遂行する上で最も重要なことは、人命の安全確保とその確認です。そのため、安否情報確認システムを導入するとともに、防災ハンドブックを配布しています。

■ 安否情報確認システム

災害発生時に、迅速に従業員の安否確認をすることは重要です。カワイでは、大規模地震等の災害発生時に自動的にメールを一斉送信し集計する、安否情報確認システムを導入しています。定期的に従業員に向けて訓練を行うことで、有事の際に迅速に対応できるよう努めています。

■ 防災ハンドブック

大規模地震等の災害に備え、災害に関する知識や情報、日頃の備えや災害発生時の対応などについてまとめた、防災ハンドブックを発行しています。このハンドブックではBCPについても分かりやすく説明することで従業員への周知に努めています。

コンプライアンス

コンプライアンスに対する基本的な考え方

カワイグループでは、コンプライアンスを単なる法令等遵守にとどまらず、会社内の規程などを守り、社会規範を含んだ倫理規範の実践により社会の信頼を得ていく事と位置づけ、全従業員が取り組むコンプライアンス経営を推進しております。具体的には法令遵守に加え、社会的な規範を包含した「カワイ倫理規範」、「倫理行動規準」を制定するとともに、外部有識者（弁護士）を加えた企業倫理委員会を設置しています。

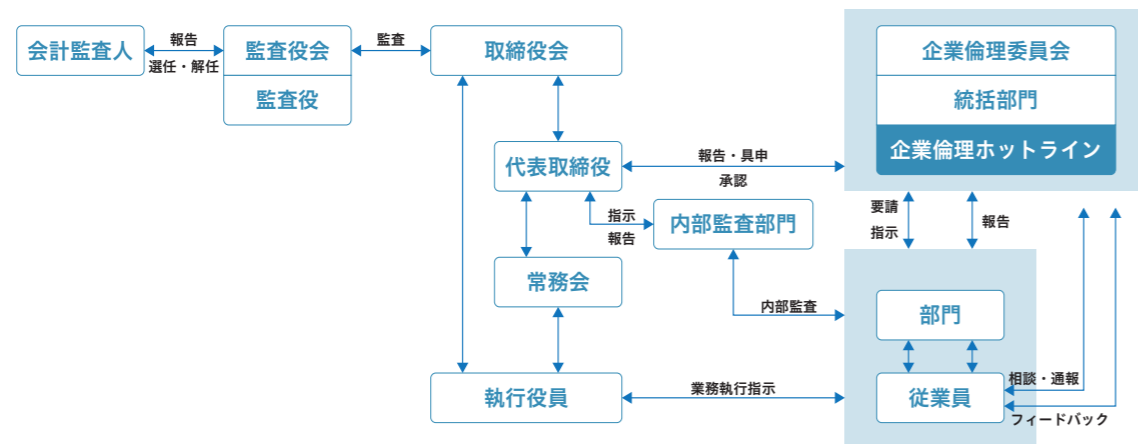
カワイ倫理規範・倫理行動規準（要旨）

- ・ 法令および社内既定の遵守
- ・ 高い道徳観と倫理観に基づく行動
- ・ 違法・反倫理的取引の禁止
- ・ 業務活動と私的活動の峻別
- ・ 基本的人権と個人の尊厳の尊重
- ・ 差別・ハラスメントの禁止
- ・ 反社会的行為の禁止
- ・ 地球環境の保全
- ・ 顧客満足度の向上
- ・ 自由競争および公正取引
- ・ 購入先・協力先・販売店との公正な取引
- ・ 贈収賄および腐敗行為の禁止
- ・ 事実と反する広告宣伝の禁止
- ・ 企業情報の適切な開示
- ・ インサイダー取引の禁止
- ・ 会社財産の管理および適正な使用
- ・ 知的財産権の保護

コンプライアンス推進体制

カワイでは、コンプライアンスに関する協議、諮問機関として企業倫理委員会を設置しコンプライアンス経営の推進に努めています。企業倫理委員会は、コンプライアンス上の問題に関する基本方針の決定、その推進状況の把握、重大な法令違反案件についての対応策の協議と社長および取締役会への具申、企業倫理課への指示を行います。

また、企業倫理に関する統括部門では、違法行為等の速やかな認識と是正のために「企業倫理ホットライン」を運営するとともに、各種コンプライアンスプログラムの企画と教育により従業員への啓蒙を進めています。



企業倫理ホットライン

カワイでは、コンプライアンスに関する違反の早期発見と解決を図るために、内部通報窓口として「企業倫理ホットライン」を設置しています。通報は匿名も可能とされており、この利用により通報者が不利益な扱いを受けることのないよう「企業ホットライン運用基準」に定められています。

コンプライアンス教育と啓蒙

カワイでは、従業員への教育・啓蒙として「企業倫理月間（10月）における啓発活動」「企業倫理ニュースの毎月発行」「コンプライアンスリスク洗い出しチェックリストによるセルフチェック」「コンプライアンス研修」等を実施することでコンプライアンス意識の向上に努めています。

データセクション

主要財務データ

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
業績						
売上高	百万円	71,302	67,520	85,703	87,771	80,192
営業利益	百万円	2,960	3,492	6,696	5,045	3,255
経常利益	百万円	3,118	4,002	7,304	5,639	4,201
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	1,545	2,579	5,046	3,672	2,782
包括利益	百万円	1,086	2,689	6,145	5,546	5,410

財務状況

純資産額	百万円	25,717	27,934	33,559	38,461	43,141
総資産額	百万円	51,758	60,699	68,391	70,818	73,538

1株当たり情報

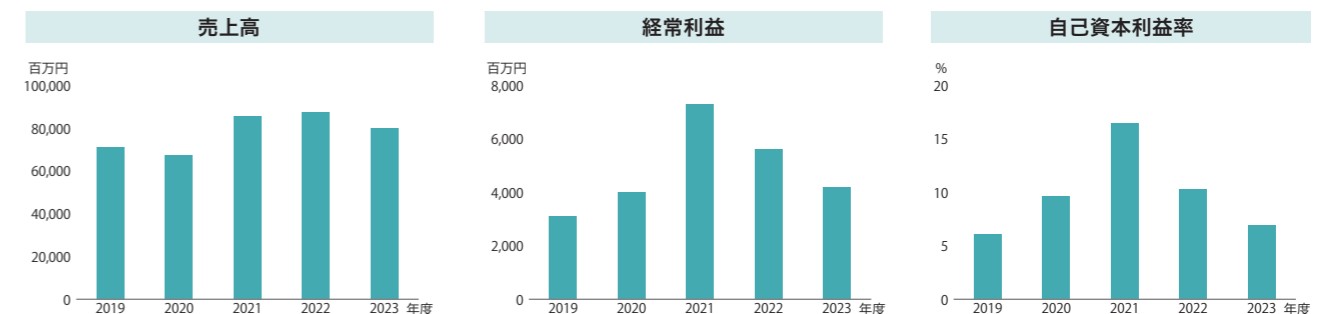
1株当たり当期純利益	円	180.17	300.16	587.17	427.33	323.72
1株当たり純資産額	円	2,980.47	3,236.55	3,884.27	4,451.73	4,993.71

財務指標

自己資本比率	%	49.5	45.8	48.8	54.0	58.4
自己資本利益率	%	6.1	9.7	16.5	10.3	6.9
株価収益率	倍	13.42	11.66	5.57	7.14	11.11

キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフロー	百万円	1,572	4,942	5,082	▲613	1,442
投資活動によるキャッシュフロー	百万円	▲1,651	▲899	▲877	▲1,364	▲943
財務活動によるキャッシュフロー	百万円	▲1,393	4,803	▲1,800	▲2,267	▲1,844
現金および現金同等物の期末残高	百万円	9,562	18,417	21,489	17,975	17,064



人事関連データ

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
----	----	--------	--------	--------

従業員数

連結	人	2,969	2,977	2,895
単体	人	1,280	1,286	1,283

健康経営

平均勤続年数	年	22.9	21.3	20.1
平均年齢	歳	46.0	44.8	45.4
健康診断受診率	%	100	100	100
ストレスチェック受診率	%	93.7	89.6	97.9
(高ストレス者割合)	%	10.7	11.8	12.3
精密検査受診率	%	87.6	87.4	94.4
適正体重の維持者率 (BMI:18.5 ~ 25.0 未満)	%	69.0	76.8	65.6
喫煙率	%	21.5	17.8	18.8
運動習慣者比率	%	23.1	26.6	24.8
休業・障害災害の度数率	—	1.59	1.09	0.53
休業・障害災害の強度率	—	0.02	0.02	0.9
アブセンティーズム ^{※1}	日	2.00	1.04	0.73

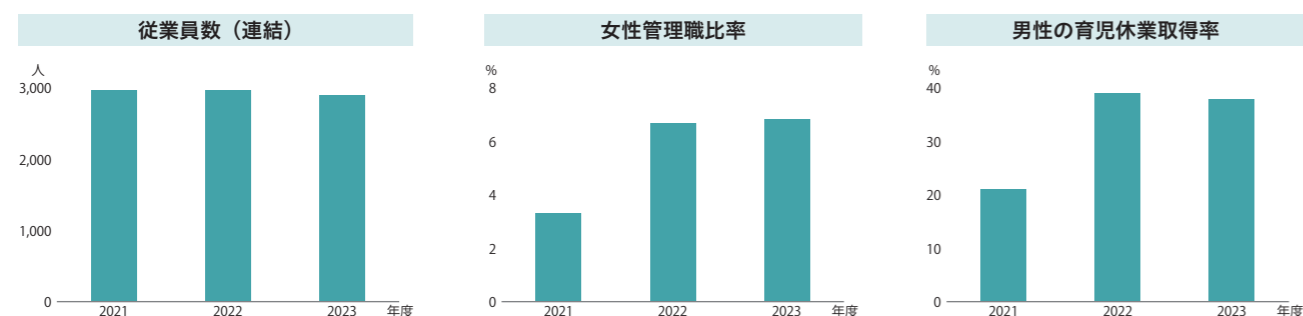
ダイバーシティ

女性管理職比率	%	3.3	6.7	6.8
女性監督職比率	%	12.9	14.2	16.8
外国人従業員数	人	9	12	11
中途採用者数	人	46	55	81
障がい者雇用率	%	2.55	2.51	2.72

ワークライフバランス

有給休暇取得日数	日	9.8	10.0	10.4
女性の育児休業取得率	%	100	100	100
男性の育児休業取得率	%	21	39	36
配偶者出産休暇取得率	%	57	53	63

※1 私傷病等により欠勤・休職した総日数の全従業員平均



環境関連データ

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
----	----	--------	--------	--------	--------	--------

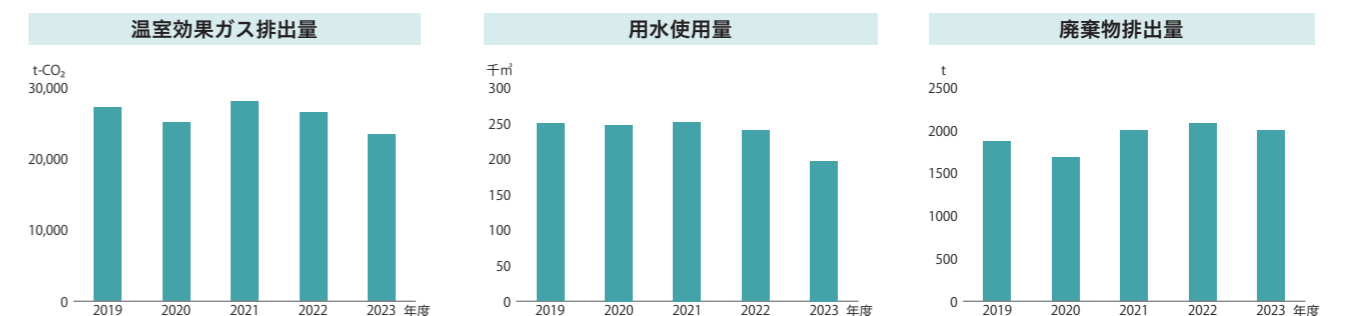
投入量

エネルギー ^{※1}	GJ	466,251	440,121	491,626	460,773	409,946
電気	GJ	409,343	386,082	427,973	399,790	361,815
A重油	GJ	9,458	9,773	10,488	9,335	8,062
LPG	GJ	5,922	5,335	6,314	6,695	4,449
都市ガス	GJ	18,046	17,092	16,894	15,292	16,104
灯油	GJ	4,319	3,998	4,626	4,689	3,240
石炭コークス	GJ	19,163	17,841	25,331	24,972	16,276
水 ^{※2}	千m ³	248	248	252	240	198
井水	千m ³	70	80	76	66	57
水道水	千m ³	106	100	105	111	71
工業用水	千m ³	72	68	71	63	70
化学物質 ^{※2}	t	70	59	99	72	79
容器包装 ^{※2}	kg	14,251	13,120	13,866	16,060	13,796
紙	kg	4,599	3,854	4,016	3,735	3,185
プラスチック	kg	9,652	9,266	9,850	12,325	10,611
燃料 ^{※1}	GJ	21,519	18,419	19,223	20,128	18,574
ガソリン	GJ	20,836	17,764	18,442	19,386	17,980
軽油	GJ	683	655	781	742	594

排出量

温室効果ガス ^{※1}	t-CO ₂	27,192	25,107	28,102	26,489	23,505
排水 ^{※2}	千m ³	198	198	202	192	158
化学物質 ^{※2}	t	18	14	20	16	20
大気放出量	t	14	10	12	11	15
廃棄物	t	4	4	8	5	5
容器包装 ^{※2}	kg	8,077	6,959	6,747	7,008	5,913
廃棄物 ^{※2}	t	1,869	1,689	2,004	2,090	2,003
焼却・埋立	t	221	254	208	223	218
再資源化	t	1,648	1,435	1,796	1,867	1,785

※1 国内事業所および海外生産系事業所を対象として算定 ※2 国内事業所を対象として算定



会社情報

カワイグループ拠点一覧



会社概要

社名	株式会社河合楽器製作所	本社	静岡県浜松市中央区寺島町200番地
創立	1927年(昭和2年)8月9日	設立	1951年(昭和26年)5月15日
資本金	7,122百万円(2024年3月末現在)	従業員数	2,895名(連結)、1,283名(単独)

編集方針

内容

本レポートでは、当社の ESG（環境・社会・ガバナンス）における取り組みをはじめとした、サステナビリティに関する活動について報告しています。カワイグループの事業内容の詳細はウェブサイトをご参照願います。

対象

お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、地元住民・NGO、行政・国際機関など全てのステークホルダーの皆様を対象としています。

報告対象機関

2023 年度（2023 年 4 月～ 2024 年 3 月）を主体としています。一部重要な事項につきましては対象期間以外の情報を含んでいます。また、集計方法の見直しなどにより既報データを一部修正し掲載した項目・数値があります。

報告対象組織

(株)河合楽器製作所 本社 / 竜洋工場 / カワイ精密金属(株) / (株)カワイキャストイング / (株)カワイハイパーウッド
※ 一部その他のグループ会社の活動についても報告しています

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2018 年版）」/ ISO26000「社会的責任に関する手引」

第三者意見



東京工業大学名誉教授
中崎 清彦 先生

本年度のレポートは、2024 年 2 月に刷新された Web ページ (<https://www.kawai.co.jp/csr/>) とデザインも統一され、図も多用されて、内容は高く、けれども表現は易しく、読みやすさが工夫されている。また、新社長の就任にともない、2027 年創立 100 周年を期した 100 年ブランドの「その先」を見据えた未来に向けての基本方針と重点戦略が分かりやすくまとめられている。100 年間ブランドの価値を高め続けてきたこと、それは、容易にはまねのできない優れたことであるが、「その先」に対する方針も示していることに「サステナブル」であることを強く意識していることが伝わる報告書になっている。なお、基本方針に基づいて持続可能な社会の実現に貢献しながら、中長期的な企業価値向上を可能にするためのマテリアリティ（企業が優先して取り組んでいく重要課題）が特定され、努力目標が具体化・明確化されている。

本レポートの果たす重要な役割の一つが、環境・社会・ガバナンスへの 2023 年度の取り組みを振り返ることにあるが、それぞれの取り組みが、SDGs とどのような関係があるかに加えて、国際的な社会的責任のガイドラインである ISO26000 との関連性についても示されており、国際的な視点を意識したものとなっている。また、2023 年度の実績は

極めて多岐にわたり、環境・社会・ガバナンスへ熱心に取り組んできたことがわかる。これまでも高く評価されてきた、例えば、温暖化防止、廃棄物の削減、国際ピアノコンクールの実施、地域活動への参加、コーポレートガバナンスの整備等々については、さらに継続・拡充・強化され、一層、進化したことが読み取れるものとなっている。なお、企業が力を発揮するためには人財のダイバーシティは欠かすことができないと考えるが、女性、外国人、様々な職歴を持つ中途採用者の人財も増えてきている。また、2023 年度は、社外取締役として女性取締役が就任して、女性取締役比率も上昇していることが示されている。

なお、企業活動にかかわるデータセクションでは、従来であれば、巻末に環境関連のデータのみが掲載されていたが、本レポートでは、それに加えて財務データや人事関連データを掲載することで、企業活動がより具体的な動きとして定量的に把握できるように工夫されている。

以上のように、カワイのこれまでの優れていた部分を伸ばし、しかも、100 年ブランドの「その先」に向けて、新社長のもと一致団結して企業価値を高めようとする意欲に満ちた報告書になっている。カワイが音楽を通じた「感動製造業」としてさらに大きく発展していくことを期待している。

第三者意見をうけて

この度は、本レポートに対する貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。中崎先生からのご意見を受け、私たちは大変励まされるとともに、今後の取り組みに対する一層の責任を感じております。

本レポートでは、内容の充実と読みやすさを両立させるよう心掛けており、この点をご評価いただいたことは大変光栄に思います。さらに、当社が「サステナブル」であることを強く意識しているのご意見は、私たちが目指している方向性をご理解いただいたことを示しており、改めて持続可能な社会の実現に向けて、企業価値を高めるための取り組みを続けていく決意をいたしました。特に、持続可能な社会の実現に向けたマテリアリティの特定と具体的な努力目標の設定は、今後の重要な課題と認識しております。またダイバーシティは私たちがこれからも力を入れていくべき重要なテーマであり、女性、外国人、様々な職歴を持つ中途採用者の人財を増やすことで、企業としての力を高めてまいります。

今後も、「感動製造業」として、企業としての持続的な発展に努めるとともに、長期ビジョン「100 年ブランドの確立」と持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めてまいります。

(サステナビリティ委員会 事務局)

KAWAI
もっと伝えたい、感動を。



株式会社 **河合楽器製作所**

サステナビリティ委員会

〒430-8665 静岡県浜松市中央区寺島町200番地
TEL : 053-457-1252 FAX : 053-457-1300
URL : <https://www.kawai.co.jp/>

